

COURSE OFFERINGS AND GUIDE TO ACADEMIC REGULATIONS



2017年度

履修要覧

日本大学国際関係学部

**COLLEGE
OF
INTERNATIONAL
RELATIONS
NIHON
UNIVERSITY**

COLLEGE OF INTERNATIONAL RELATIONS NIHON UNIVERSITY

国際関係学部

College of International Relations

国際総合政策学科

Department of International Studies

国際教養学科

Department of International Liberal Arts

所在地

〒411-8555 静岡県三島市文教町 2 丁目31番145号

インターネットホームページアドレス

<http://www.ir.nihon-u.ac.jp/>

目的および使命

日本大学は 日本精神にもとづき

道統をたつとび 憲章にしたがい

自主創造の気風をやしな

文化の進展をはかり

世界の平和と人類の福祉とに

寄与することを目的とする

日本大学は 広く知識を世界にもとめて

深遠な学術を研究し

心身ともに健全な文化人を

育成することを使命とする

履修要覧

2017年度

この履修要覧には、本学部の学生が必ず知っておかなければならない学則、卒業に必要な単位数やその履修方法など、学修を進めていく上で指針となる事項が集約されています。

総合大学である日本大学ならではの他学部での履修（相互履修）、国際化に伴う交換留学や海外留学制度、またそこで修得した単位の取り扱い、手続き方法についても説明しています。

大学生活においては、各種届出書類を提出することが必要になります。それら書類の書き方や提出先などについても記載してありますので、この履修要覧で確認してください。より充実した学生生活を送るために、大学での学修のみならず、フィールドスタディの手引きとしてこの履修要覧を活用してください。

本学部学生は、入学年度交付の「履修要覧」に従って学修してください。履修を希望する授業科目は、年度毎の「授業時間割表」、「授業計画（シラバス）」を参照してください。なお、編入学生・転部生・再入学生は該当する年次の「履修要覧」に従って学修してください。

在学期間中の必要事項が網羅されているこの履修要覧は、入学時のみに配布しますので、卒業するまで紛失しないようにしてください。紛失者に対する再交付はいたしません。なお、履修要覧の内容が変更される場合は、ガイダンスや掲示において変更内容をお知らせします。

目 次

I 国際関係学部の概要

国際総合政策学科	1
国際教養学科	1

II 各種手続き等

授業	2
インターネット・携帯電話を利用した休講情報	3
欠席	4
試験	7
レポート	11
成績と単位	12
単位認定	14
休学・復学・退学	16
各種証明書	18

III 履修登録

履修の手順と授業の形態	19
履修科目の登録	20
受講届の提出	20
履修登録の注意点	20
履修登録の削除・追加	21
履修単位の制限	21
履修登録の流れ	22
履修登録方法	24

IV 卒業の要件

卒業に必要な単位	35
----------------	----

V 履修上の注意点と科目

履修上の注意点	36
所属学科とコースの選択	36
授業科目配置表	37
外国語の履修	54
ゼミナール・卒業論文	55
インターンシップ	56

国際交流（外国語実習）	57
相互履修科目	58
単位互換科目	59
教職課程	60
日本語教員養成プログラム	64
Ⅵ 海外留学	
留学を思い立ったら	68
国際関係学部における留学に関する取扱い	68
各種留学制度	69
日本大学海外学術交流協定校	71
国際関係学部海外学術交流覚書・合意書締結校	71
ティーチング・インターンシップ・プログラム	72
Ⅶ 日本大学学則（抄）	73
Ⅷ 部科校所在地一覧	79
索引	80

日本大学の理念

日本大学の教育理念は「自主創造」です。日本人としての主体性を認識し、その上でグローバル化に対応できる世界的視野で物事を捉え、それぞれが学ぶ領域や活動体験を生かし「自主創造」の気風に満ちた人材の育成を目指します。

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- 日本の特質を理解し伝える力
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- 社会に貢献する姿勢
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

- 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- 世界の現状を理解し、説明する力
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

- 論理的・批判的思考力
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- 問題発見・解決力
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

- 挑戦力
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- コミュニケーション力
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- リーダーシップ・協働力
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- 省察力
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

日本大学国際関係学部の教育理念

日本大学の教育理念「自主創造」に基づき、「国際社会の理解及び貢献」をその理念とする。

日本大学国際関係学部の教育研究上の目的

国際関係学部

日本大学の教育理念「自主創造」を実践するとともに、国際社会で活躍するために必要な問題解決能力、社会の各分野で提言できる政策能力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた、国際交流や国際社会のさまざまな分野で活躍できる人材を養成する。

国際総合政策学科

国際交流や国際社会のさまざまな分野で、困難な問題に対しても、高度な意志決定ができる人材を養成する。国際人として欠かすことのできない英語をはじめとした外国語能力を向上させるために基礎教育を徹底して行う。総合的な教養力を養うとともに、国際関係、国際ビジネス、グローバルスタディ、グローバル観光の4つの履修コースを柱として、国際実務に必要な専門知識とスキルを養成する。

国際教養学科

多文化共生社会において、異文化理解を深めるための専門知識と英語を中心とした外国語の実践的な運用能力のある人材を養成する。様々な国・地域における高度な文化的専門知識を養うとともに、国際文化、国際コミュニケーション、グローバルスタディ、グローバル観光の4つの履修コースを柱として、実務に耐える応用力を養成する。

日本大学国際関係学部の教育目標

国際関係学部

時代の要請に応えて、学際的な学びを通じて、広い国際的視野と語学的要素を基礎に、国際関係を深く理解する人材育成が目標である。

国際総合政策学科

日々起きている経済、環境、紛争などの問題は、今や特定の国や地域のものではなくその解決にはグローバルな視点が必要とされ、こうした問題に直面した時に、素早くその本質を見抜き、解決するために政策を実行できる人材育成が目標である。

国際教養学科

今日の世界では、異なる言語、文化、宗教間での摩擦が身近なところで起きており、多文化共生社会の実現が求められており、使える外国語を身に付けるとともに、歴史、思想、芸術、宗教、文学を幅広く学び、異文化理解力と外国語運用能力を習得した人材育成が目標である。

日本大学国際関係学部の教育方針

日本大学国際関係学部では良質な学位授与を実現するため、その教育方針を以下のとおり定めます。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

国際関係学部では、日本大学の教育理念である「自主創造」、すなわち「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」を基に、本学部所定の期間在学し、本学部の教育研究上の目的及び教育目標に沿って認定した所定の卒業要件を満たし、以下の資質を身につけた者に学士（国際関係）の学位を授与します。

- 1 国際社会に通用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観を身につける。
- 2 各学科・コースの専門科目を学修することにより、国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識を身につけるとともに、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力、実務にも即応した問題解決能力、各分野で提言できる政策立案能力、多文化共生の理解を深めるための知識と実践的な外国語運用能力を身につける。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際関係学部では、その教育目標及びディプロマ・ポリシーに基づいた学士の養成を目指し、国際社会で活躍するために必要な問題解決能力、社会の各分野で提言できる政策能力、高いコミュニケーション能力を兼ね備えた、国際交流や国際社会のさまざまな分野や局面で活躍できる自己解決型の人材育成教育を行うため、次のような方針に基づきカリキュラム（教育課程）を編成しています。

また、各科目における教育内容・方法、成績評価方法及び評価基準をシラバス等で明示し学生に周知した上で、公正かつ厳密に評価を行います。

- 1 包括的な知識の修得、柔軟な発想の涵養を目指し、国際社会に通用する豊かな知識と幅広い教養力を身につけ、高い倫理観を養うための「総合教育科目」を設置
- 2 基本的な学修の能力・方法やコミュニケーション能力の基礎を修得させることを目的として「基礎科目」を初年次に設置
- 3 高度な外国語運用能力の習得を可能とするため、初年次に「外国語科目」、2年次以降に「専門外国語」、「観光外国語」、「資格外国語」を設置
- 4 幅広い専門分野の知識を修得させるとともに、国際社会の各分野でリーダーシップを発揮し、活躍・貢献・支援できる能力を身につけられる実践的な教育を実施できるように、初年次では国際関係及び国際文化に関する学問の基礎を学び、2年次以降は、国際総合政策学科では国際関係・国際ビジネス・グローバルスタディ・グローバル観光の4コースに、国際教養学科では国際文化・国際コミュニケーション・グローバルスタディ・グローバル観光の4コースに分かれて、国際社会が直面している問題を正しく理解でき、実務にも即応した問題解決能力、各分野で提言できる政策立案能力を身につけ、国際社会や国際交流の各分野で活躍しうるために理論と応用力を身につける専門科目を設置
- 5 多文化共生の理解を深め、寛容性や探究心を育むため、2年次に海外研修科目を選択必修として含めた「地域研究」を設置し、また、日本文化に基づく日本人の気質・感性・価値観を日本語並びに英語で学ぶ「ジャパニスタディーズ」を設置
- 6 4年間の学修総まとめをし、振り返りを通して自己研鑽を行い、社会人基礎力を身につけ、卒業後の人生に役立てるために「ライフデザイン」を設置

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

国際関係学部では、日本大学の理念「自主創造」のもと、広く知識を世界にもとめる人材の育成を目的とします。本学部の目指す教育は、自らの価値を高め世界で活躍できるように、知りたいという好奇心、学びたいという探究心に応えます。そこで得た問題解決能力及びコミュニケーション能力は、複雑化する国際社会において、文化の違いや利害関係を乗り越え、様々な人や組織の協働を促します。世界の多様な民族、言語、宗教、文化、社会、環境などをグローバルな視点で学びたい人を広く求めます。

将来、国際社会の様々な分野で活躍するために、海外留学経験や外国語運用能力、集団におけるリーダーシップやコミュニケーション能力の実践、スポーツ・文化活動の成果等、多彩な個性を持つ意欲の高い者を広く求めます。

入学前に修得しておくことが望まれる学業内容

高等学校教育課程全般の内容はもとより、特に世界及び日本の地理・近現代史の学業内容から異文化への興味を高め、理解を深めていることが望ましい。

I 国際関係学部の概要

国際関係学部には、世界を舞台に活躍するための実務的な知識を学ぶ国際総合政策学科と、高度な異文化理解と外国語を運用する能力を身につける国際教養学科の2学科が設置されています。

国際総合政策学科

私たちの周りで日々起きている経済、環境、紛争などの問題は、今や特定の国や地域のものではなく、その解決にはグローバルな視点が必要とされています。本学科では、こうした問題に直面した時に、素早くその本質を見抜き、解決するための政策を決定し実行することのできる人材を養成します。そのために、国際的な視野を持って、社会で活躍することを目指している人材を求めます。2年次からは国際関係、国際ビジネス、グローバルスタディ、グローバル観光の4つのコースから1つを選択し学修します。

国際教養学科

人と物と情報がダイナミックに交錯する今日の世界では、異なる言語、文化、宗教間での摩擦が私たちの身近なところで起きており、多文化共生社会の実現が求められています。本学科では、単に「読める」、「書ける」から「使う」、「話せる」外国語運用能力を身につけるとともに、異文化理解には欠かせない歴史、思想、芸術、宗教などを幅広く学びます。そのために、多文化共生社会で活躍することを目指している人材を求めます。2年次からは国際文化、国際コミュニケーション、グローバルスタディ、グローバル観光の4つのコースから1つを選択し学修します。

Ⅱ 各種手続き等

授 業

① 授業時間

月曜日から土曜日までの授業時間は、原則として次のとおりです。

1 時限	9 : 00～10 : 30
2 時限	10 : 45～12 : 15
3 時限	13 : 00～14 : 30
4 時限	14 : 45～16 : 15
5 時限	16 : 30～18 : 00
6 時限	18 : 15～19 : 45

② 休講措置

【個々の授業の休講】

やむをえない理由で授業が休講となる場合は、原則として掲示によって連絡します。

休講掲示は正門掲示板及び三島駅北口校舎教務課掲示板（2階）に掲示しますので、確認してください。また、UNIVERSAL PASSPORT（以下UNIPA）でも確認できます。（p.3参照）

事前に連絡がなく、授業開始時刻から30分を過ぎても担当教員が教室に来ない場合は、講師室又は国際研究室に問い合わせる指示を受けてください。

【一斉休講】

天候悪化（※1）や交通機関の乱れ（※2）により、国際関係学部すべての授業が休講となる場合があります。UNIPAでお知らせいたしますので、各自確認するようにしてください。なお、以下の時間を目安に休講の連絡を掲載します。

1・2時限の休講に関する情報：休講当日午前6時
3時限以降の休講に関する情報：休講当日午前9時

※1 気象庁による気象警報発令に基づき、自動的に休講となるものではありません。

※2 交通機関の乱れとは、数時間以上の運転見合わせやストライキを想定しています。
JR東海道新幹線及びJR東海道本線を対象とします。

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想される時、気象庁所管の「地震防災対策強化地域判定会」が招集され、状況により「警戒宣言」が発令されます。判定会が招集されたことを確認した時点で休講とします。

③ 補 講

やむをえず休講となった授業は、担当教員の指定する日時に補講を行います。補講についてはUNIPA、国際研究室前の掲示板及び三島駅北口校舎教務課掲示板で確認してください。

④ 教室変更

学校行事又は担当教員の指示により、教室を変更することがあります。教室変更についてはUNIPA、国際研究室前の掲示板及び三島駅北口校舎教務課掲示板で確認してください。

インターネット・携帯電話を利用した休講情報

日本大学国際関係学部では休講情報等が下記のとおりインターネット及び携帯電話から、UNIPAで確認することができます。

- 1 **掲載内容** ①休講情報
②教室変更情報
③その他（お知らせ／呼び出しなど）

- 2 **アクセス媒体** ①パソコン ②携帯電話

3 **利用するまでの準備**

入学時の開講式で配付されるユーザIDとパスワードでログインしてください。ユーザIDとパスワードは履修登録の際にも使用しますので、大切に保管してください。

4 **アクセス方法**

日本大学国際関係学部ホームページトップ画面上部にあるUNIVERSAL PASSPORTからログインし、「休講・補講・教室変更」を確認してください。

5 **利用にあたっての注意事項**

- UNIPAで掲載内容を見る場合は、ポップアップブロックを解除しないと見られません。パソコンや携帯電話のブラウザの設定を変更してください。
- 大学への直接の電話による問い合わせは控えてください。
- 自分のパスワードを他人に知られないようにしてください。
- パスワードを忘れてしまった場合は、教務課で学生証を提示し、パスワード参照を申し出てください。
- ネットワーク障害時やメンテナンス時は利用できません。その場合、ログイン画面下部に掲載します。
一度のアクセスでつながらない場合がありますので、時間をおいてアクセスしてください。

欠 席

欠席の手続き

授業の欠席回数が3分の1を超えた場合などは、原則として評価の対象となりません。やむをえない理由で授業を欠席する場合は、所定の手続きが必要になります。この手続きは、欠席する期間や欠席理由により、次の3つに分けられます。ただし、各欠席届の取り扱いは、各授業の担当教員の判断に委ねられていますので、欠席届を提出すれば出席扱いになるとは限りませんので注意してください。

授業欠席届を偽造するなど、不正に提出する事例がみられます。取り扱いには十分注意してください。

	欠席理由	欠席届の種類	欠席届の受領	欠席届の提出先
①	病気その他やむをえない理由で、 <u>7日(1週間)未満</u> 授業を欠席した場合	授業欠席届	各自コピー (次ページ)	授業担当教員
②	病気その他やむをえない理由で、 <u>7日(1週間)以上</u> 授業を欠席した場合		教 務 課	授業担当教員 及び 教 務 課
③	就職活動により、授業を欠席する場合	就職活動による 授業欠席届	就職指導課	授業担当教員

※確認テスト又は定期試験を病気その他やむをえない理由で欠席する場合はp.9を参照してください。

授業欠席届

- ① 授業を7日(1週間)未満欠席した場合は、次ページの書式をコピーし、必要事項を記入後、クラス担任の認印を得た上で、授業担当教員に提出してください。また、「授業欠席届」には、病気その他の理由を証明する書類(※診断書等)を必ず添付してください。
- ② 授業を7日(1週間)以上欠席した場合は、以下の手続きが必要となります。

7日以上欠席用書式

授 業 欠 席 届	
平成.....年.....月.....日	
日本大学国際関係学部長 殿	
国際関係学部.....学科.....年.....クラス	[学生番号.....]
フリガナ	
本人氏名	Ⓜ
わたくしは、下記のとおり欠席いたしましたので、お届けいたします。	
記	
1 欠席期間	平成.....年.....月.....日(.....)から 平成.....年.....月.....日(.....)まで
2 欠席理由
3 欠席理由を証明する書類 (別紙)
担 任	
□	

■授業欠席届提出上の注意

- ・「授業欠席届」の用紙(左記書式)を教務課で受け取ってください。
- ・「授業欠席届」には、**病気その他の理由を証明する書類(※診断書等)を添付してください。**
- ・「授業欠席届」は、本人がクラス担任の認印を得て、教務課に原本、授業担当教員にその写しを提出してください。

※学校感染症(インフルエンザ, 風疹等)による出席停止の場合は、学生手帳(p.24~26)を参照の上、「学校感染症治癒証明書」のコピーを添付してください。

授業欠席届

平成____年____月____日

授業担当者 _____ 先生

国際関係学部 _____ 学科 _____ 年 _____ クラス

[学生番号 _____]

フリガナ

氏 名 _____ (印)

わたくしは、下記のとおり欠席いたしましたので、
お届けいたします。

記

1 欠席期日 平成____年____月____日 (____)

2 授業科目 (____) 時限 _____

3 欠席理由 _____

4 添付書類 別 紙

担 任

就職活動による授業欠席届

「就職活動による授業欠席届」は、企業訪問、企業セミナー、面接試験などの日時が授業日と重なり、授業に出席できない場合に使用することができます。ただし、訪問先企業の証明印を受領する等、届出にあたってはルールがありますので、届出用紙の受取り及び詳細については、必ず就職指導課窓口で事前に確認をしてください。

「就職活動による授業欠席届」の取り扱いは、各授業の担当教員の判断に委ねられていますので、この欠席届を提出すれば出席扱いになるとは限りませんので注意してください。

試 験

各学期末には確認テストや定期試験が実施されます。受験できる科目は履修登録している科目のみです。履修登録している科目であっても、実質的に受講者とみなされない理由がある場合（授業を指定された回数以上欠席した等）は受験を認められないことがあり、その場合の成績は「E」と記載されます。確認テストや定期試験を実施しない演習科目などは、シラバスに記載がある成績評価基準に基づき評価されます。

確認テスト

科目の到達度を理解するため、14・15週目に到達度確認期間が設けられています。到達度確認期間には、確認テストが実施され、評価の一部になります。

定期試験

定期試験は、教職課程履修科目の一部で実施します。授業が実施されている曜日・時限と異なる時間に定期試験が実施される場合があるので、時間割をよく確認のうえ受験してください。定期試験を実施しない教職課程履修科目は、授業時間内の平常成績で評価します。

追試験

追試験は、確認テスト又は定期試験を実施した科目のうち、科目担当教員が実施を判断した科目のみについて設定され、病気・事故その他やむをえない理由によって受験できなかった者を対象に実施します。所定の手続きにより許可を与えられた科目に限り、その年度あるいはその学期の所定の期間に行います。

- ① **受験希望者は、確認テスト又は定期試験の当該科目試験日から7日以内（ただし、7日目が日曜・祝祭日にかかる場合はその翌日）に「試験欠席届」を教務課へ提出しなければなりません。この「試験欠席届」を提出しない場合は、追試験を受験することができません。**用紙は教務課で交付します。
- ② 「試験欠席届」には、欠席理由を証明する書類を必ず添付してください。
- ③ 追試験の科目・時間割などについては、事前に掲示によって発表します。
- ④ 追試験の結果による科目の総合評価は、定期試験受験者との公平さが保たれる範囲において行われます。
- ⑤ 追試験を欠席した場合、いかなる理由があってもこれにかわる試験は実施されません。

受験上の注意

- ① 定められた期日までに履修登録を行わなかった者、あるいは追試験の受験資格のない者は、追試験を受験できません。また、正しく履修登録されていない科目や、試験欠席届を提出していない追試験科目は受験できません。
- ② **学生証を携帯していない者は、受験できません。**ただし、学生証を携帯していない場合でも、**所定の手続きを経て「仮学生証」を交付された者に限り受験できます。**(p.10参照)
試験中は学生証(又は仮学生証)をケースから出して、机上に顔写真を上にして提示してください。
- ③ 受験者は定められた時間内に指定の試験場へ入場し、監督者の指示を待ち、試験中は監督者の指示に従ってください。
- ④ 試験場における座席は監督者の指示に従ってください。
- ⑤ 机には筆記用具及び許可された参照物以外は、置かないでください。なお、**同一参照物を他の受験者と共同で使用することはできません。**
- ⑥ **特別な指示がある場合以外は、教科書、ノートなどのコピーは参照物として認められません。**
- ⑦ 携帯電話等を時計として使用することはできません。なお、受験の際は、携帯電話等の電源を必ず切るようにしてください。
- ⑧ 答案用紙に各自の学部・学科・学年・クラス・学生番号・氏名を必ず記入してください。無記名の答案は、無効となります。
- ⑨ 原則として試験開始後15分までの遅刻者は試験の受験が認められますが、それ以上経過した遅刻の場合は受験できません。ただし、担当教員の許可がある場合はこの限りではありません。
- ⑩ 問題用紙及び解答用紙は使用・未使用に関わらず、試験場から持ち出すことは不正行為とみなされます。
- ⑪ 受験した者は、解答の有無に関わらず、氏名などを記入した答案用紙を提出しなければなりません。
- ⑫ 試験は厳正かつ公平に行われなければならない趣旨からも、**不正行為は絶対にしてはいけません。**不正行為と認められる行為があった場合、理由を問わず日本大学学則第76条・77条及び本学部で定めた内規等に基づき、懲戒(退学・停学・訓告の3種)を行います。また、教授会で懲戒処分が決定次第、学内に当該学生の所属、学年、学生番号、氏名、処分理由・内容等を掲示するとともに、学生本人及び保証人宛通知をすることとなります。監督者が許可した以外のものは、使用の有無、出題内容との関連性の有無に関わらず、使用できる状態にある場合は不正行為とみなされます。
- ⑬ **試験等における不正行為等により懲戒処分を受けた学生の成績は、その懲戒の種類に関わらず、原則として当該試験期間中の試験実施科目のすべてが無効になります。**
- ⑭ 定期試験において、病気その他やむをえない理由により受験できなかった場合は、当該科目の試験実施日から**7日以内**(ただし7日目が日曜・祝祭日にかかる場合はその翌日)にその事実を証明する書類を添えて所定の「試験欠席届」を必ず教務課に提出してください。
- ⑮ 試験開始後、座席表が回されることがありますので、必要事項を必ず記入してください。記入しない場合は受験しなかったとみなされますので、十分注意してください。

試験欠席届

確認テスト又は定期試験を、病気その他やむをえない理由により欠席した者に対して、追試験を行う場合があります。この場合は、当該科目の試験実施当日から**7日以内**（ただし7日目が日曜・祝祭日にかかる場合はその翌日）にその事実を証明する書類を添付して「試験欠席届」を提出してください。なお、この手続きをしない場合は、追試験を受験できません。

確認テスト又は定期試験の欠席理由及び「試験欠席届」に添付する書類は、次のとおりです。

欠席理由	必要な証明書及び届出の内容
本人の病気・けが	医師の診断書 （病名・受診日及び安静等の期間、病院名が確認できるもの） ※病院・薬局のレシート（領収書含む）は不可 ただし、学校感染症（インフルエンザ、風疹等）の場合は「学校感染症治癒証明書」のコピー（学生手帳（p. 24～26）を参照）
不慮の事故・災害	公的な証明書（例：交通事故証明）
忌引き	会葬御礼等（葬儀の日時が確認できるもの） ※三親等内の血族又は姻族
交通機関の遅延	当該交通機関で発行された遅延証明書
就職採用試験	採用最終試験に限る。（就職活動全般を許可するものではない） ※採用試験を受験した証明書（4年生のみ対象）
その他の理由	受験できなかった理由を証明する文書または証明可能な書類 （但し大学が認めた場合） ※第三者の証明書の取得が絶対必要条件

- 1 病気・けがで試験を欠席した場合は、必ず病院で診察を受けてください。
- 2 試験時間の勘違い（授業時間と定期試験時間との勘違い）、掲示の見落とし、寝坊、サークル活動、アルバイト、旅行、個人的な都合等の理由により試験を欠席した場合は、追試験の対象となりませんので注意してください。

手続方法

- ① 「試験欠席届」を教務課で受け取る。
- ② 必要事項を記入し、クラス担任に認印をもらう。※3枚複写3枚とも
（クラス担任から認印がもらえない場合は、学科主任からもらう）
- ③ 教務課に必要な証明書を添付して提出する。（**証明書がない場合は受理できません**）

仮学生証（試験受験用）

試験を受験するときは、必ず学生証を机上に提示しなければなりません。学生証を忘れた場合は、本館1階又は三島駅北口校舎1階にある証明書自動発行機で仮学生証を発行してください。手続き方法は、次のとおりです。

- ① 本館1階又は三島駅北口校舎1階にある証明書自動発行機で学生番号とUNIPAのパスワードを入力して仮学生証を発行してください。
- ② 発行手数料300円が必要です。
- ③ 仮学生証の有効期間は発行日のみです。

仮 学 生 証 (試験受験用)

(フリガナ) 氏 名			
学 科			
学 生 番 号			
学 年	ク ラ ス	番	
住 所			
連 絡 先			

※下記に受験科目情報を記入すること。

時 限	受 験 科 目	担 当 教 員

写真貼付欄

本仮学生証は、
発行日当日限り有効とする。

発行日：平成 年 月 日

発 行 印

■仮学生証申請上の注意

仮学生証の発行には、5分程度時間がかかります。

試験時間直前にこの手続きをしますと、遅刻扱いになり試験を受験できなくなる可能性があります。

学生証を忘れた場合は、試験を受験する上でたいへん不利になりますので、十分注意してください。

※学生証再発行

学生証を紛失したときは、手数料1,000円（証紙）を添えて、教務課に再発行を申請してください。

レポ
ー
ト

① 担当教員に提出する場合

表紙は所定の「レポート用表紙」を参考に各自で作成し、その表紙をホチキスで止めて担当教員に直接提出してください。

② 教務課・国際研究室等に提出する場合

教務課・講師室及び国際研究室に用意してある所定の「レポート用表紙」の各欄をボールペンで各自記入し、その表紙をホチキスで止めて担当教員の指示する場所に提出してください。レポートは指定された場所以外では受け付けできません。提出場所は担当教員に必ず確認してください。

③ 提出期限

提出締切日及び時間は科目により異なるので、必ず担当教員に確認して指示どおりに提出してください。提出先の事務取り扱い時間以外のレポート提出は一切受け付けません。

レポート	
科目名	
担当教員名	
開講曜日	曜日 時限
課題	
提出日・時間	平成 年 月 日() 時 分
提出場所	研究室・教務課・()
学部・学科	国際関係学部 学科
学年・クラス	年 クラス
学生番号	
フリガナ	
氏名	
受 付 印	

■レポート提出上の注意

- ・レポートの提出については、各担当教員の指示に従ってください。
- ・指定された期日、時間は厳守してください。
- ・担当教員の指示以外の方法で提出してもレポートは受理されません。

〈参考〉

教務課・講師室・国際研究室の 事務取り扱い時間	
月～金	9:00～17:00
土	9:00～13:00

成績と単位

履修科目の成績評価と単位の認定については、次のとおりです。

- ① 正しく履修登録された科目が成績評価の対象となります。ただし、欠席が非常に多いなど実質的な受講生と見なされない理由がある場合は、成績評価の対象となりません。
- ② 講義科目については、出席回数が授業時間数の**3分の2に満たない場合は**、原則として単位は付与されません。演習・実技・実習・会話科目については、出席回数が授業時間数の**3分の2に満たない場合**、又は**シラバスに記載されている出席回数を上回らない場合は**、原則として単位は付与されません。
- ③ 講義科目の単位は試験成績と平常成績により、また実技・実習・演習・会話科目の単位は平常成績により、それぞれ総合的に成績が評価されます。
- ④ 成績は、次の項目により総合的に評価されます。科目によって異なりますので、詳しくは「授業計画（シラバス）」を確認してください。
 - ・ 講義・演習・実技・実習などに対する学習意欲・学習態度
 - ・ 試験結果
 - ・ 受講態度
 - ・ 課外での学習活動
 - ・ レポート、課題学習、提出物、その他
- ⑤ 本学では成績評価にGPA(**Grade Point Average**)制度を採用しています。成績評価は、次の5段階で表示されます。

素点	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点～0点	—	—
成績	S	A	B	C	D	E	N
係数	4	3	2	1	0	0	—

GPAは、修得した授業科目の単位数にグレードポイント（上記係数）を乗じ、その合計（ポイント数）を履修単位数の合計で除して算出したものです。（次ページ【GPA計算例】参照）成績「S」、「A」、「B」、「C」を合格とし、合格科目には所定の単位が付与されます。「D」は不合格とし、不合格科目の単位は付与されません。また、この他に「E」は履修登録をしたが、試験欠席または評価自体に値しないもの、「N」は編入学や、外国の大学に留学し、修得して認定された科目です。なお、成績証明書には「D」、「E」の表記はされません。

⑦ 成績評価の結果は、次のとおり通知します。

区 分	対 象	時 期	通知方法
前期履修登録科目	全員	夏季休暇期間	郵送により通知
前期末試験追試験の結果	追試験受験者	後期授業開始後	UNIPAで各自確認
通年及び後期履修登録科目 (2月の追試験の結果を含む)	4年生	3月上旬	郵送により通知
	1～3年生	3月下旬	郵送により通知

※卒業決定者は3月上旬に正門掲示板にて発表されます。また郵送によっても通知します。

〈参考〉

【GPA計算式】

$$\frac{(4 \times S \text{ 評価の修得単位数計}) + (3 \times A \text{ 評価の修得単位数計}) + (2 \times B \text{ 評価の修得単位数計}) + (1 \times C \text{ 評価の修得単位数計})}{\text{総履修単位数 (評価D, 評価Eの単位数を含む)}}$$

【GPA計算例】

履修登録科目名 (単位数)	評価 (係数)	ポイント数 (単位数×係数)
自主創造の基礎1 (2単位)	A (3)	GPAに算入しない
自主創造の基礎2 (2単位)	B (2)	GPAに算入しない
哲学 (2単位)	S (4)	2 × 4 = 8
芸術 (2単位)	B (2)	2 × 2 = 4
法学 (2単位)	D (0)	2 × 0 = 0
政治学 (2単位)	E (0)	2 × 0 = 0
商学 (2単位)	B (2)	2 × 2 = 4
経営学 (2単位)	C (1)	2 × 1 = 2
英語Ⅰ (2単位)	A (3)	2 × 3 = 6
英語Ⅱ (2単位)	A (3)	2 × 3 = 6
英語Ⅲ (2単位)	S (4)	2 × 4 = 8
英語Ⅳ (2単位)	A (3)	2 × 3 = 6
スポーツ科学と健康 (2単位)	S (4)	2 × 4 = 8
スポーツ総合 (1単位)	A (3)	1 × 3 = 3
国際関係論入門 (2単位)	A (3)	2 × 3 = 6
国際文化論入門 (2単位)	B (2)	2 × 2 = 4
日本近現代史 (2単位)	C (1)	2 × 1 = 2
世界近現代史 (2単位)	B (2)	2 × 2 = 4
情報処理Ⅰ (1単位)	B (2)	1 × 2 = 2
資格英語Ⅰ (1単位)	B (2)	1 × 2 = 2
合計① (33単位)	⇒	② 75
GPA=②÷①		75÷33=2.27

- ※1 GPAは小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位までを有効とします。
- ※2 評価「N」はGPAに算入されません。
- ※3 評価「D」、「E」はGPAに算入されます。ただし、その科目を再履修した場合のみ評価は上書きされ、以前の評価はGPAに算入されません。
- ※4 卒業要件に参入されない科目及び「自主創造の基礎1」、「自主創造の基礎2」はGPAに参入されません。

単 位 認 定

各種検定試験や課外講座により単位認定を申請することができます。希望者は申請期間内に手続きをしてください。①～④により認定された単位数は、一年間に履修できる最高単位数には含みません。

①外国語技能検定による単位認定

【認定基準等】

- ①以下の各言語の表に基づき、申請する級やスコア等に応じて対象科目から選択し申請できます。ただし、認定科目は、申請する学年で履修することができる科目のみを対象とします。
- ②一度認定を受け、改めて技能審査の同じ級（または同レベルのスコア等）を取得した場合、再度申請することはできません。
- ③修得済科目の申請は認めません。
- ④単位認定の申請については、該当する外国語の番号の若い科目を申請してください。

【申請方法】

合格証、またはスコアシートを持参のうえ、教務課で申請してください。

【申請期間】

- ①前期授業開始日から2週間
- ②後期授業開始日から1週間
- ③1月の授業開始日から1週間（4年生のみ）

※学事日程の都合により上記申請期間を変更する場合があります。変更する場合には事前に掲示にてお知らせします。

英語

上限単位数		8単位	4単位
実用英語技能検定 (日本英語検定協会)		1級	準1級
TOEFL® (国際教育交換協議会)	ITP Level 1	580点以上	550点～579点
TOEIC® (国際ビジネスコミュニケーション協会)		870点以上	730点～869点
【対象科目】		英語Ⅰ～Ⅳ	英語Ⅰ～Ⅱ
評価		N	N

※TOEFL-iBT® については、ETS (Educational Testing Service) の換算表に基づきTOEFL-ITP® スコアに準じた単位数を認定する。

ドイツ語

上限単位数	12単位	10単位	6単位	2単位
ドイツ語技能検定試験	1級・準1級	2級	3級	4級
CEFR基準	C2, C1, B2	B1	A2	A1
【対象科目】	ドイツ語Ⅰ～Ⅷ	ドイツ語Ⅰ～Ⅵ	ドイツ語Ⅰ～Ⅳ	ドイツ語Ⅰ, Ⅱ
評価	N	N	N	N

フランス語

上限単位数	8単位	4単位	2単位
実用フランス語技能検定試験	1級	準1級	2級
CEFR基準	C1, C2	B2	B1
【対象科目】	フランス語Ⅰ～Ⅷ		
評価	N	N	N

スペイン語

上限単位数	6 単位	4 単位	2 単位
スペイン語技能検定試験	3 級	4 級	5 級
D.E.L.E (Diploma de Español como Lengua Extranjera)	B2	B1	A2
【対象科目】	スペイン語Ⅴ,Ⅵ,Ⅶ,Ⅷ, 観光スペイン語Ⅰ,Ⅱ	スペイン語 Ⅲ,Ⅳ	スペイン語 Ⅰ,Ⅱ
評価	N	N	N

中国語

上限単位数	8 単位	4 単位	2 単位(入学時)
中国語検定試験	1 級～準 1 級	2 級	3 級
新HSK	6 級	5 級	4 級
BCT	5 級	4 級	3 級
【対象科目】	中国語Ⅰ～Ⅷ	中国語Ⅰ～Ⅳ	
評価	N	N	N

韓国語

上限単位数	8 単位	4 単位	2 単位
韓国語能力試験	4 級	3 級	2 級
ハングル能力検定試験	準 2 級	3 級	4 級
【対象科目】	韓国語Ⅰ～Ⅷ	韓国語Ⅰ～Ⅵ	韓国語Ⅰ～Ⅳ
評価	N	N	N

2 課外講座による単位認定

休暇期間中に行われる課外講座については、単位認定を行う場合があります。

〈課外講座〉

・ハワイ大学共催夏期英語集中講座

詳しくは、各課外講座の要項を確認してください。

3 検定試験合格による単位認定について

以下の表に記載のある科目に限り、検定試験合格等の要件を満たせば単位認定を申請することができます。

【申請方法】

検定試験合格証を持参のうえ、教務課で申請してください。

【申請期間】

①前期授業開始日から 2 週間 ②後期授業開始日から 1 週間

※履修開始年次以上にならないと申請することはできません。

科目名	履修開始年次	要件	試験主催団体	評価
情報処理Ⅰ	1	日商 P C 検定試験(文書作成) 3 級合格	日本商工会議所	N
情報処理Ⅱ	1	日商 P C 検定試験(データ活用) 3 級合格	日本商工会議所	N
簿記論	2	日商簿記検定試験 3 級以上合格	日本商工会議所	N
地球環境と持続可能な開発	2	環境社会検定試験(eco検定)合格	東京商工会議所	N

4 既修得単位の認定について

入学前に国際関係学部または他大学等で修得した単位が認定される場合があります。

授業内容等により認定できるか審査しますので、すべての単位が認定されるとは限りません。

【申請方法】

成績証明書・シラバスを持参のうえ、教務課で申請してください。

【申請期間】

入学年度の 4 月 15 日まで

休学・復学・退学

休学

- 休学については、学則で次のとおり定められています。
 - 病気その他やむをえない事由により、引き続き3か月以上出席することのできない者は、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で願い出て、その許可を得て休学することができる。ただし、休学期間は1年以内とし、なお、休学を要する者は、許可を受けて更に1年以内の休学ができる。(学則第25条)
 - 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。(学則第26条)
 - 休学期間は、修業年数に算入しない。(学則第27条)
- 休学の手続き

休学願
平成____年____月____日

日本大学国際関係学部長殿

国際関係学部 _____ 学科____年____クラス
平成____年度入学【学生番号_____】

本人氏名 _____ 印
保証人(父母)氏名 _____ 印

わたくしは、下記のとおり休学させていただきたいので、御許可くださるよう保証人連署をお願いいたします。

記

1 休学期間 平成____年____月____日から
平成____年____月____日まで

2 休学理由
 進路考察 経済的理由 海外留学(学校名 _____)
 就職活動 病気療養 その他 _____

理由詳細 _____

※ 病気その他やむをえない事由により、休学する場合は、その事実を証明する書類(診断書等)を添付すること。また、理由がでる日は学籍に記入すること。

3 連絡先 (〒 _____)
(住所) _____
(E-mail) _____ (携帯) _____

※ 連絡先は休学期間中も連絡をとれる場所を記入すること。海外にいたため連絡を取れない場合は、保証人の住所を記入すること。

【重要事項等】休学する場合は、次の内容を確認し、必ず□にシ点を付けること。

1 休学期間は半年もしくは3年とする。
 2 退学後再入学する場合は、再入学を受け休学することができず、ただし、休学できる期間は、合計2年とする。
 3 修業年数は最低4年、また3年次編入生は最低2年を要する。休学期間は、この修業年数に算入できない。
 4 在学期間は、休学期間を含めて8年を超えることができない。また、3年次編入生は4年を超えることができない。
 5 休学期間は卒業の年より前1年まで休学継続しなければならない。在学期間は、休学期間終了する年の卒業までに完了すること。この継続しない場合は退学することがある。
 6 休学期間の学費は、会計課(055-989-6903)へ問い合わせること。

学則訂正 退学申請書提出先	担 任

■「休学願」提出上の注意

- 「休学願」の用紙は、教務課で受け取ってください。
- 「休学願」には、病気その他の事実を証明する書類(医師の診断書等)を添付してください。
- 本人欄には、本人が署名・捺印し、保証人欄には、保証人が署名・捺印してください。**筆跡や印鑑が同じ場合は受理できません。**
- 「休学願」は、本人がクラス担任と学科主任の認印を得て、教務課に提出してください。病気その他の理由により、本人がクラス担任と学科主任の認印を得られない場合は、事前に教務課に連絡してください。

③ 授業料について

- 「学費の取扱いに関する要項」に基づき、授業料他所定の学費が、次のように減額されます。
 - 5月31日までにその学年の休学を願い出た者は、当該年度の前学期分及び後学期分を徴収しない。
 - 6月1日から11月30日までの間に、その学年の休学を願い出た者は、当該年度の後学期分を徴収しない。
 - 5月31日までに前学期の休学を願い出た者は、当該年度の前学期分を徴収しない。
 - 11月30日までに後学期の休学を願い出た者は、当該年度の後学期分を徴収しない。
- 学費を徴収されなかった者からは、徴収されない学期ごとに、休学在籍料として6万円を徴収する。
- 授業料納入後に休学を許可された者の前項各号に該当する納入超過分については返還されます。ただし、上記の減額措置を受けた者が、休学期間中に退学等により学籍を失った場合、徴収した休学在籍料は返還されません。

復学

復学の手続き

休学者には、休学期間が満了する学期末に「復学願」を送付しますので、指示にしたがって所定の期日までに教務課に提出してください。

※休学中は、卒業日（3月25日）においても休学期間中のため復学することができません。よって休学中は卒業することができません。

退学

① 修業年限・退学・除籍・懲戒については、学則で次のとおり定められています。

- ① 修業年限は、最低4年とし、在学年数は、8年を超えることができない。（学則第21条第1項）
- ② 病気その他やむをえない事由のため、退学しようとする者は、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で退学願を提出して、許可を受けなければならない。（学則第28条）
- ③ 故なくして3か月以上学費の納付を怠った者は、これを除籍することができる。（学則第30条）
- ④ 故なくして欠席が長期にわたる者は、これを除籍することができる。（学則第31条）
- ⑤ 懲戒は、退学・停学及び訓告の3種とする。

前項の退学は次の各号の一に該当する者について行う。

- 1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- 2 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- 3 正当の理由がなくて出席常でない者
- 4 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者（学則第77条）

② 次に該当する場合は、「退学願」の提出を促すことがあります。

- ① 故なくして3か月以上学費の納付を怠った者
- ② 在学年数が7年を超えても卒業の見込みがない者
- ③ 学力劣等で成業の見込みがないと見込まれる者

③ 退学の手続き

退学願										
平成 年 月 日										
日本大学国際関係学部 殿										
国際関係学部 学科 年 クラス										
平成 年度入学 [学生番号]										
本人氏名 印										
保証人(父母)氏名 印										
<p>わたくしは、下記のとおり退学させていただきたいので、ご許可くださるよう保証人連署をもってお願いいたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p>										
1 退学期日	平成 年 月 日									
2 退学理由	<p>申請する項目に印をつけてください</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td><input type="checkbox"/> 医学費欠喪失</td> <td><input type="checkbox"/> 経済的理由</td> <td><input type="checkbox"/> 他校入学(学校名)</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 学生生活継続困難</td> <td><input type="checkbox"/> 家庭の事情</td> <td><input type="checkbox"/> 本人の健康上の理由</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 不本意入学</td> <td><input type="checkbox"/> 就職</td> <td><input type="checkbox"/> その他</td> </tr> </table>	<input type="checkbox"/> 医学費欠喪失	<input type="checkbox"/> 経済的理由	<input type="checkbox"/> 他校入学(学校名)	<input type="checkbox"/> 学生生活継続困難	<input type="checkbox"/> 家庭の事情	<input type="checkbox"/> 本人の健康上の理由	<input type="checkbox"/> 不本意入学	<input type="checkbox"/> 就職	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 医学費欠喪失	<input type="checkbox"/> 経済的理由	<input type="checkbox"/> 他校入学(学校名)								
<input type="checkbox"/> 学生生活継続困難	<input type="checkbox"/> 家庭の事情	<input type="checkbox"/> 本人の健康上の理由								
<input type="checkbox"/> 不本意入学	<input type="checkbox"/> 就職	<input type="checkbox"/> その他								
理由詳細	<p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>									
3 連絡先(〒 -)										
住所	_____									
TEL	_____									
E-mail	_____									
担任所見	<table border="1" style="width: 100%; height: 40px;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="width: 20%;"></td> </tr> </table>									
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 80%;">学科主任 連署委員会議長</td> <td style="width: 20%;">担任</td> </tr> <tr> <td style="height: 30px;"></td> <td style="height: 30px;"></td> </tr> </table>	学科主任 連署委員会議長	担任							
学科主任 連署委員会議長	担任									

■「退学願」提出上の注意

- ・「退学願」の用紙は、教務課で受け取ってください。
- ・「理由詳細」欄には、「退学理由」で✓印をつけた事項について、そこに至った経緯等を可能な限り詳細に記入してください。
- ・「退学願」には**病気その他の事実を証明する書類(医師の診断書等)**を添付してください。
- ・本人欄には、本人が署名・捺印し、保証人欄には、保証人が署名・捺印してください。**筆跡や印鑑が同じ場合は受理できません。**
- ・「退学願」は、本人がクラス担任と学科主任の認印を得て、学生証と一緒に教務課に提出してください。病気その他の理由により、本人がクラス担任と学科主任の認印を得られない場合は、事前に教務課に連絡してください。
- ・退学の期日により、学費の取り扱いが異なりますので、事前に教務課に問い合わせてください。

各種証明書

種類	手数料	取扱	発行日	所管
卒業（修了）見込証明書	100円	証明書自動発行機	即日	教務課
成績証明書	200円			
単位修得見込証明書	200円			
在学証明書	100円			
仮学生証（試験受験用）	300円			学生課
健康診断証明書	100円			
学割証	無料			
卒業証明書	200円	教務課	即日	教務課
退学証明書	200円			
学生証再発行	1,000円		申し込み日の翌日	
学力に関する証明書	100円		申し込み日から 約1週間	
英文証明書（1枚目） 同（2枚目以降）	600円 200円			
英文健康診断証明書	600円	学生課	即日	学生課
通学証明書	無料			
推薦書	無料	就職指導課	申し込み日の翌日	就職指導課

(2016年4月現在)

■証明書自動発行機

- ① 設置場所 本館1階、三島駅北口校舎1階
- ② 取扱証明書 卒業（修了）見込証明書・成績証明書・単位修得見込証明書・在学証明書・健康診断証明書・学割証
- ③ 利用時間 9:00～17:00（月～金）
9:00～13:00（土）
※日・祝日・創立記念日（10月4日）は利用できません。
※春季・夏季・冬季休暇期間については取り扱い時間を変更する場合があります。
※その他業務上の都合により、使用できない場合があります。
- ④ 学生証及び暗証番号
証明書自動発行機を利用するには、学生証が必要です。また、パスワードを入力する必要があります。パスワードはUNIPAと同様です。

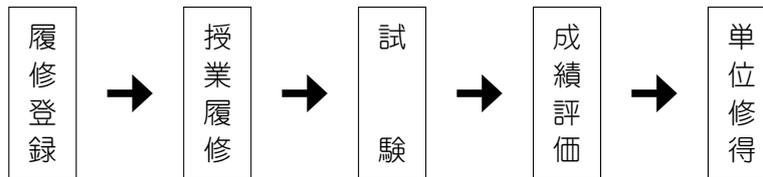
■卒業後の証明書の申込み方法

卒業証明書、成績証明書は教務課窓口で発行します。郵送で申込む場合には、必要事項の記入等、所定の手続に従い申し込んでください。詳細は日本大学国際関係学部ホームページにて確認してください。

Ⅲ 履 修 登 録

履修の手順と授業の形態

履修から単位修得までの流れ



科目の種別

授業科目は履修方法の違いによって次の種類に大別されます。

必修科目	卒業までに必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修できる科目

どの年次に、どの学期に、どの科目を、どれだけ履修するかは、基本的には各自の自主的な判断に基づいて決定するものです。選択科目では、学習に対する興味や関心のある分野を学ぶことが大切でしょう。また、所属する学科の学習指針などに応じて、その目的が充分活かされるように選択することも大切です。履修は、卒業するまでに卒業要件を満たすことを最低条件としますが、各年次ごとに適切な科目、科目数及び単位数を履修できるよう考えなければなりません。

国際関係学部における各科目の設置年次及び時間割は、いろいろな科目を履修できるよう充分配慮されています。しかし、クラス編成、利用施設などの制限や時間割の編成上、複数の科目が同一時限に集まることがあり、全ての学生の要望を満たせないことがあります。また開講科目も前・後期ともに開講される科目と、いずれかの学期にしか開講されない科目があります。特に上位学年になって下位学年対象の科目を再履修しようとする時、色々な問題が発生しますので充分注意してください。

また、各学年の年間履修登録単位数の上限が40単位（4年次は48単位）に定められています。履修登録が最終的に確定した科目については確実に単位を修得できるように励みましょう。不合格科目が多くなると、低学年次の時点で、4年間での卒業ができなくなる可能性があります。

余裕を持って単位を修得していけるよう、本要覧や「授業計画（シラバス）」、「時間割」等を参考にして、適切な履修計画を立ててください。

授業の開講期

本学部では、1学年を二分し、前期、後期とする Semester 制を展開しています。原則として、すべての講義科目は1 Semester（1学期）で完結します。ただし、演習科目及び実習科目またその他授業の性質上、前期、後期を通して通年で実施される科目もあります。

履修科目の登録

履修登録は、本年度の受講科目を決定する大切な手続きです。

履修科目の登録は、各自の責任のもとで、原則として年度の始めに（セメスター制で後期に開講される科目も含む）行うものです。UNIPAで公開している時間割表に記載されている科目の中から履修要件に照らして履修科目を選び、履修登録の期間を確認の上、所定の期日までに受講届を提出し、UNIPAで履修登録を行ってください。受講・履修手続きに関して不明な点がある場合は、担任教員、教務課、国際研究室に相談してください。

受講届の提出

- ① 教務課・国際研究室に置いてある「受講届」に必要な事項を記入し、受講希望科目の担当教員の指示に従い、初回授業時に直接提出してください。**なお、科目によっては初回授業で履修者数の制限を行い、「受講届」が受理されない場合があります。**
- ② 履修登録とともに「受講届」の提出を行わないと、当該科目の受講と単位の修得が認められない場合があるので、充分注意してください。

履修登録の注意点

履修登録期間内に、インターネットを使用し、担任教員に相談しながらUNIPAで履修登録を行ってください。その際、印刷して必ず自身の控えも取っておくようにしてください。

※履修登録内容については、自己責任となりますので、必ず登録内容を自分自身で再度、確認してください。

〈確認事項〉

- ① 科目名・科目担当教員等を必ず確認してください。
- ② 登録科目に誤りがないか、前期履修登録期間に必ず確認し、誤りがあった場合には、前期履修登録科目の削除・追加期間内にUNIPAで訂正し、再度確認してください。
- ③ **履修科目の登録漏れや誤った科目を登録した場合、たとえ授業に出席しても、単位の修得は認められません。**

以下の科目は、指定された期日のガイダンスに出席し、所定の手続きを行ってください。ガイダンスの日程等は掲示にてお知らせいたします。（相互履修科目・単位互換科目のガイダンスはありませんので、初回授業に必ず出席してください）

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| ・ インターンシップ p.56 | ・ 国際交流（外国語実習） p.57 |
| ・ 日本大学他学部との相互履修科目 p.58 | |
| ・ 短期大学部（三島校舎）との単位互換科目 p.59 | ・ その他特別講座 |

履修登録の削除・追加

履修登録科目の削除・追加期間内で行われる履修登録科目の削除・追加は、GPA制度導入による救済措置です。GPA値の低下を回避するために削除を許可するもので、追加を容認するものではありません。

学生は4月に1年間の履修計画（時間割）を立てて、必要に応じて担任教員に相談しながら履修登録期間にUNIPAで登録し、自分の履修登録科目を確認して履修登録完了することが原則です。

ただし、履修制限等でやむをえず登録科目を変更する場合、前期の場合は履修登録の削除・追加期間内に各自がUNIPAで変更作業を行います。後期の場合は、後期履修登録科目の削除・追加期間に各自UNIPAからダウンロードした「学生時間割表」を朱書き訂正の上、担任教員の研究室に向き確認を受けてください。その後、「学生時間割表」をもとに、UNIPAで後期履修登録変更作業を各自行ってください。また、同期間内に再度登録内容の確認を行ってください。なお、科目を追加する場合、それまでの欠席分は配慮されませんので、注意が必要です。履修登録科目の削除・追加できない事例は、p.23を参照してください。

- ※1 履修登録科目の削除・追加できない事例に該当しない場合でも、「削除・追加」の期間を過ぎた場合は変更できなくなりますので、必ず自分の目で確認してください。
- ※2 例年、担任教員の研究室のポストへ勝手に投函する学生がいます。この場合は確認を受けたことになりませんので、必ず面会して担任教員より確認を受けるようにしてください。

●担任・オフィスアワーについて

担任は、皆さんの履修登録や卒業までのステップなど、学修についての相談、指導、助言を行います。各担任はオフィスアワーの時間に研究室に在室しているので、相談がある場合は訪ねてください。オフィスアワーの時間帯は、各担任の研究室前に掲示しています。

履修単位の制限

1年間で履修登録できる単位数は、最高**40単位**（1年次～3年次）となります。

ただし、4年次のみ最高履修単位は、**48単位**となります。

「自主創造の基礎1」、「自主創造の基礎2」は**最高履修単位数に含まれません**。

「相互履修科目」は最高履修単位数に含まれます。また、教職課程科目、日本語教員養成科目（卒業単位に算入できない科目）は最高履修単位数に含まれません。

履修登録の流れ

※期間を過ぎての履修登録科目の変更は認められないので、慎重に確認してください。

【前期】

〈履修する科目のチェック〉

「履修要覧」とUNIPAの「シラバス」・「時間割」でチェック

※シラバスを熟読しておき、第1回目の授業に出席できるよう準備をしてください。

〈第1回目の授業に出席〉

教務課・国際研究室にある「受講届」を各科目担当教員に提出

※第1回目の授業に出席しないと、履修制限により受講できなくなる場合があるので注意してください。

〈履修登録〉

- 1 1年間の履修計画を開講期（前期・後期）毎に立て、履修登録期間内（4月）に1年間分の履修登録を行ってください。
- 2 履修登録が終了したら学生時間割表をダウンロード・印刷し、登録内容を再確認してください。

※前期・後期の開講科目がすべて登録されていることを自分で確認してください。

〈履修登録の削除・追加期間〉

履修登録の削除・追加期間は、履修登録期間で登録した科目を修正することができます。ただし、自由に登録内容を変更できるものではなく、やむをえない場合に限り変更することができますので、以下の事項を確認し、必ず担任教員から確認を得た上でUNIPAにて登録変更を行ってください。

- ①科目担当教員から事前に許可を得る。
- ②履修条件に合致している。
- ③クラス指定科目になっていない。

※履修登録の方法については、p.24を参照してください。

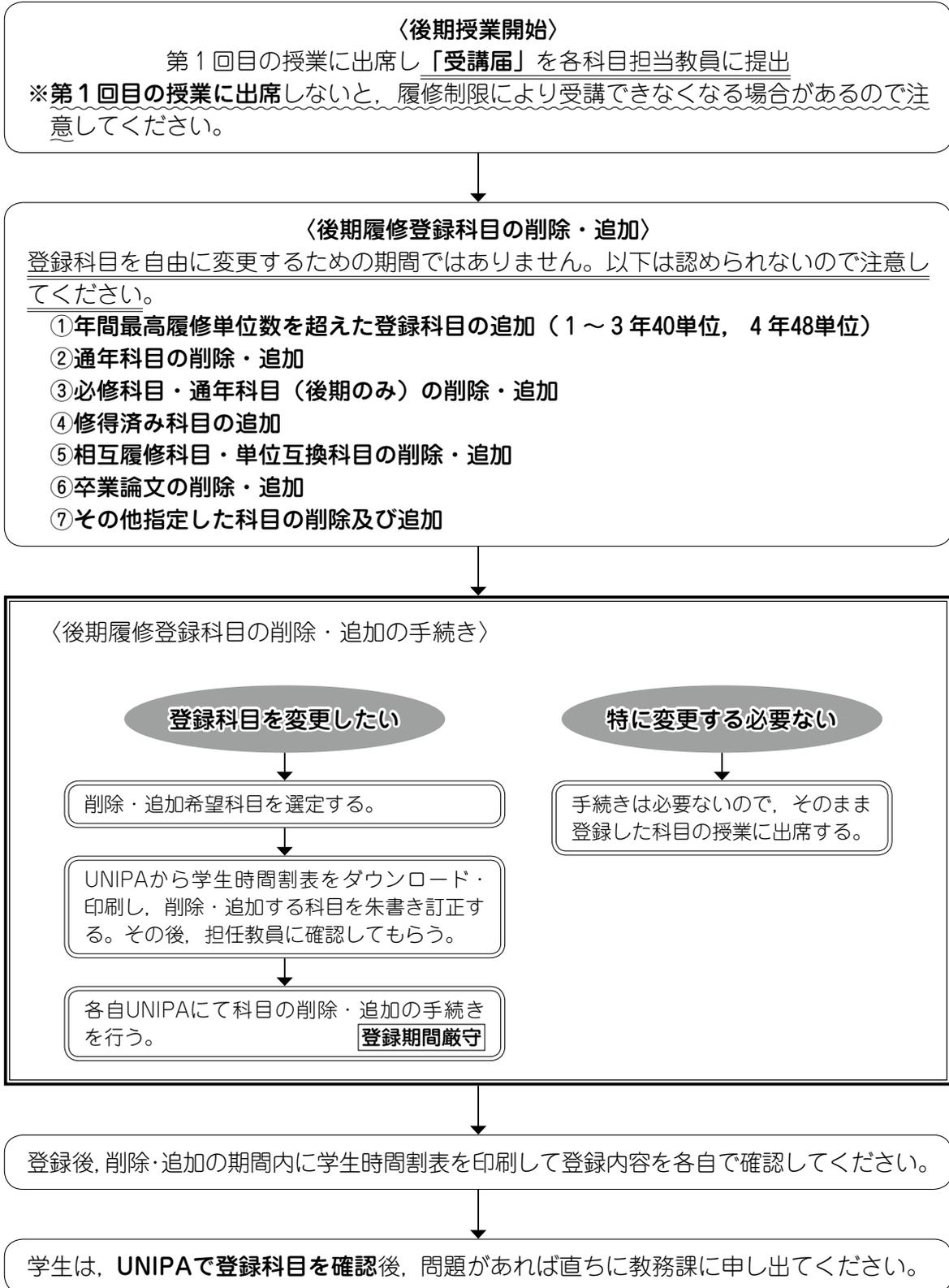
※午前3時～午前5時30分まではシステムメンテナンス時間となるため、アクセスできません。

履修登録の削除・追加期間終了をもって履修登録完了とする。

※期間を過ぎての履修登録科目の変更は認められません。

後期履修登録科目の削除・追加は、履修制限等により受講が出来なくなり、GPA値が下がることを防ぐための救済措置です。登録科目を自由に変更することはできません。

【後期】



履修登録方法

1 UNIVERSAL PASSPORTとは

「UNIVERSAL PASSPORT（以下UNIPA）」とは、休講情報等を確認したり、履修登録や成績確認等を行うことができるシステムです。

「これからの学生生活で、どのような科目を履修するのか？」から始まり、「どのようなキャンパスライフを送るのか？」キャンパスライフ全体を通じて活用してください。

2 UNIPA使用時の注意

UNIPAでの履修登録は必ずパソコンで行ってください。推奨ブラウザはUNIPAトップページに表示されています。スマートフォン、タブレットでの登録は推奨していません。

※利用するにあたっては、以下のことに注意してください。

〈使用上の注意〉

- 情報処理教室および情報処理自習室に設置されている公共パソコンを使用する場合は、指導員の指示に従ってください。もし、操作方法が分からなくなった場合は、必ず指導員に相談してください。
- 必ず登録期間内に履修登録を完了させてください。また、各学年の履修登録最終日は混雑が予想されるため、できる限り早めに登録をしてください。
- 公共パソコンは、長時間占有しないでください。
- 公共パソコンの設定を無断で変更しないでください。
- パスワードは、他人に教えないでください。パスワードを忘れた場合は、本人が本館1階教務課に学生証を持参し、パスワード参照を申し出てください。
※パスワードの発行には時間がかかる場合があります。

〈操作上の注意〉

- 公共パソコンに勝手にアプリケーションをインストールしたり、ダウンロードしたりしないでください。
- ブラウザの[戻る][進む]ボタンは使用しないでください。誤作動の原因になります。「UNIPA」の[戻る]ボタンでページ移動をしてください。
- 「UNIPA」が表示されない等のトラブルが発生した場合は、教務課に問い合わせてください。
- 一定時間操作を行わないとタイムアウトになり、最初から作業をやり直すこととなりますので、注意してください。

3 事前準備

UNIPAで履修登録する前に必ず以下の準備を行ってください。

- ①ユーザID、パスワードの確認をしましょう。もし忘れてしまった場合は、教務課で学生証を提示し、パスワード参照を申し出てください。
- ②履修登録する前に受講希望の授業を事前にシラバス等で参照し、各自UNIPAからダウンロードした時間割表に受講希望科目を記入して時間割表を完成させてから担任教員に履修内容を確認したうえで、UNIPAで登録してください。なお、この時に履修登録する単位数の合計が年間最高履修単位を超えていないか確認してください。
※シラバス（授業計画）はUNIPAで閲覧できます。
- ③履修要覧（本書）を用意します。準備ができれば、早速履修登録をはじめましょう。

時限	曜日	月			火			水			木			金			土		
		科目名	単位数	担当教員															
1	通年／前期																		
	後期																		
2	通年／前期																		
	後期																		
3	通年／前期																		
	後期																		
4	通年／前期																		
	後期																		
5	通年／前期																		
	後期																		
6	通年／前期																		
	後期																		

4. 履修登録を行う

4-1 UNIPAにアクセスする

①日本大学国際関係学部のホームページにアクセスする。

<http://www.ir.nihon-u.ac.jp>



※ポップアップブロックの画面が表示された場合は、「このサイトのオプション (O)」をクリックし、「常に許可 (A)」を選択してください。



② UNIVERSAL PASSPORTをクリックする。



③ 「User ID」と「PassWord」を入力してください。

 UNIVERSAL PASSPORT

ログイン

User ID

PassWord

 シラバス

日本大学国際関係学部 UNIPA EX

※このシステムで「掲示」を見る場合には、ポップアップブロックを解除しないと見られません。各自のパソコンや携帯のブラウザの「設定」を変更してください。例えば、iPhoneの場合「設定」→「Safari」→「ポップアップブロック」を解除するという操作を行ってください。

※携帯アドレスを登録していない学生は必ず登録すること※
(登録がない場合には、大学からの緊急受信メール等の重要なメールが届かなくなります。)

nihon-u.ac.jpから、メールを受信できるように各自設定してください!!!

【注意】

パスワードを忘れてしまった場合は、教務課にて学生証を提示し、パスワード参照を申し出てください。

4-2 履修登録画面を開く

① メインメニューの「履修登録」をクリックします。

※履修登録期間を過ぎると履修登録のメニューをクリックしても機能しません。

The screenshot shows the top navigation bar of the Universal Passport system. The '履修登録' (Class Registration) menu item is highlighted with a red box. Below the navigation bar, there is a 'ポータル' (Portal) section with a calendar for April 2017 and a '休講・補講・教室変更' (Class Cancellation/Supplemental/Class Change) section.

② 「次へ」をクリックし、学籍情報変更申請、アンケート回答をして、履修登録へ進みます。

The screenshot shows the '履修登録' (Class Registration) page. A navigation breadcrumb at the bottom reads: '1.説明画面 > 2.学籍情報変更申請 > 3.アンケート回答 > 4.履修登録'. The '次へ' (Next) button is highlighted with a red box.

[概要]

履修授業の登録、履修チェック(基本チェック、制限チェック、条件チェック)を行います。

1.説明画面

※携帯アドレスを必ず入力してください。これを入力しないと、大学からの緊急メール等の通知を受け取ることができなくなります。※ Please be sure to enter your mobile e-mail address. If you do not enter it, you will not be able to receive e-mail emergency notification.



2.学籍情報変更申請

学籍情報の変更申請を行います。※履修登録期間中は、この画面から、携帯アドレスを入力してください【必須事項】。From this screen, please enter your mobile address during registration period. [mandatory]



3.アンケート回答

アンケートの回答を行います。集計結果を確認することができます。集計結果はグラフ表示されます。



4.履修登録

履修授業の登録、履修チェック(基本チェック、制限チェック、条件チェック)を行います。Class registration, checking courses (basic checks, limit checks, conditional check).

4-3 履修登録を行う

各曜日、時限ごとに「選択」ボタンをクリックすると、履修可能な科目が表示されます。

履修登録

1 授業の選択 ▶ 2 エラー確認 ▶ 3 最終確認 ▶ 4 完了

▶ 履修する授業を選択してください。 ◀

履修合計単位 0 チェック

2017年度 前期 | 後期へ 前期単位 0

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択	選択	選択	選択	選択	
2	選択	選択	選択	選択	選択	
3	選択	選択	選択	選択	選択	
4	選択	選択	選択	選択	選択	

4-4 履修科目を選択する

履修したい科目を選択します。

【例】月曜日 2 時限目の履修登録をする場合

月曜日 2 時限目の「選択」をクリックして、

ENGL102-12 英語Ⅱ【熊木 秀行】 にチェックをつけて「確定」をクリックすると

授業の追加 閉じる

2017年度 前期 月2

授業コード	科目名	単位
<input checked="" type="checkbox"/> ENGL102-12	英語Ⅱ E12【熊木 秀行】 複回	2

確定

チェックをつける

表示内容項目の見方（例）

ENGL102-12	英語Ⅱ	【熊木 秀行】	複回	2 単位
授業コード	科目名	担当教員名	※「セメスター科目」を意味する表示	単位数

※「セメスター科目」とは、同一授業コードで週 2 回開講される科目です。

下図のように時間割表に反映されます。

■ 2017年度 前期 | 後期へ 前期単位 2

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
1	選択	選択	選択	選択
2	選択 削除 <input type="checkbox"/> ENGL102-12 英語Ⅱ E12 【熊木 秀行】 N408 2単位 抜回	選択	選択	選択 削除 <input type="checkbox"/> ENGL102-12 英語Ⅱ E12 【熊木 秀行】 N408 抜回
	選択	選択	選択	選択

履修登録は、前期と後期で分けて登録作業を行います。通年科目を登録する場合は前期で登録になりますので注意してください。

※授業時間割表の検索

メインメニューの「時間割」→「授業時間割表」で全時間割を検索することができます。



【注意点】

- ① 画面に表示されている授業が、すべて履修できるわけではありませんので、「履修可能年次」等カリキュラム内容を十分に確認した上で選択してください。
- ② クラス名は表示されません。授業コード及び教員名を確認し選択してください。
- ③ 前期と後期に分けて登録を行ってください。通年科目を登録する場合は、前期で登録をしてください。通年で登録した曜日時限に後期科目を登録するとエラーになります。
- ④ 同一授業コードで週2回開講されている Semester 授業については、必ず両方の時間帯を選択してください。
- ⑤ 履修登録中は、アクセス状況により画面表示の応答時間が遅くなる場合があります。その場合はしばらく時間をおいてからアクセスしてください。また [確定] ボタンの連打はエラーを引き起こす恐れがあるため絶対に行わないでください。

4-5 卒業論文・集中講義・実習科目の登録方法

登録画面を下にスクロールすると「集中講義」「実習」の選択枠があります。

5	選択	選択	選択	選択	選択
6			選択		
集中講義			実習		
選択					

集中講義の「選択」をクリックすると、下図のような受講可能な科目が表示されます。チェックマークを入れて「確定」ボタンをクリックすると、時間割表に反映されます。

■ 授業の追加 閉じる

2017年度 後期 集中講義

授業コード	科目名	単位
<input type="checkbox"/> GELP101-01	国際交流(外国語実習)【国際主催 ストニーブルック大学】【杉本 宏昭】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-02	国際交流(外国語実習)【国際主催 TIEC】【東馬 宏和】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-03	国際交流(外国語実習)【短大主催 ハワイ大学】【髙橋 敦彦】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-04	国際交流(外国語実習)【国際主催 WITT】【上田 龍太郎】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-05	国際交流(外国語実習)【国際主催 北京大学国際関係学院】【井上 桂子】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-06	国際交流(外国語実習)【国際主催 フライブルグ大学】【未設定】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-07	国際交流(外国語実習)【国際主催 アンソニョリック大学】【橋本 由紀子】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-08	国際交流(外国語実習)【本部主催 ヘンリッックカレッジ】【未設定】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-09	国際交流(外国語実習)【本部主催 エリザベス女王カレッジ】【未設定】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-10	国際交流(外国語実習)【本部主催 ホンソ大学附属英語研修機関】【未設定】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-11	国際交流(外国語実習)【国際主催 トロント大学】【熊木 秀行】	2
<input type="checkbox"/> GELP101-12	国際交流(外国語実習)【国際主催 サラマンカ大学】【角田 哲康】	2

確定

以下の科目の受講希望者は4月の履修登録期間内に必ず履修登録を行ってください。なお、「集中講義」、「実習」のそれぞれの枠内で複数授業を選択することは可能ですが、科目によっては開講曜日・時間が重複している場合がありますので、登録前には必ず日程を確認してください。

卒業論文	履修登録が完了されなければ、卒業論文は受理されません。
国際交流（外国語実習）	履修登録が完了されなければ海外研修を行っても成績評価の対象外となります。なお、海外研修前にキャンセルした場合は後期授業開始時に本科目を削除してください。
教育実習Ⅰ	履修登録が完了されないまま教育実習を実施した場合、成績評価がされず教育職員免許状の取得ができなくなります。

4-6 履修登録授業を確定する

履修する授業をすべて選択したら、前期時間割表の右上にある「チェック」をクリックします。「チェックを開始してよろしいですか」とメッセージが表示されたら「OK」をクリックして登録内容を確認します。

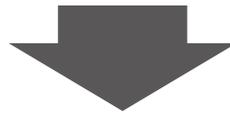
履修登録



履修合計単位 2 ▶ チェック

■ 2017年度 前期 | 後期へ 前期単位 2

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	選択	選択	選択	選択	選択	
2	選択 削除 ENGL102-12 英語Ⅱ E12 【熊本 秀行】N408 2単位 選回	選択	選択	選択 削除 ENGL102-12 英語Ⅱ E12 【熊本 秀行】N408 選回	選択	
	選択	選択	選択	選択	選択	



エラーがなければ、下図のように「エラーはありません」と表示されますので、「確定」ボタンをクリックします。「確定してよろしいですか」とメッセージが表示されたら「OK」をクリックします。

履修登録 履修授業の登録、履修チェック(基本チェック、制限チェック、条件チェック)を行います。Class registration, checking courses (basic checks, l...

前へ 1.説明画面 ▶ 2.学籍情報変更申請 ▶ 3.アンケート回答 ▶ 4.履修登録

履修登録

授業の選択へ戻る

履修合計単位 14 ▶ 確定

■ 2017年度 前期 | 後期へ 前期単位 12

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日

下図のように前期と後期の時間割表が作成されました。「印刷実行」ボタンをクリックすると印刷ができます。印刷した学生時間割表は、その学年が終了するまで、大切に保管してください。

学生時間割表 取消

2017/04/07(金) 16:50

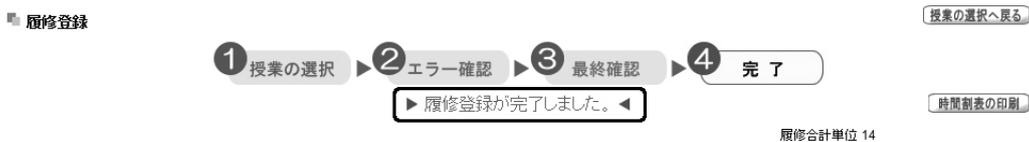
2017年度 前期

学年: 1年 カリキュラム学科組織: 日本大学国際関係学部 国際総合政策学科 英語 正規生
123456 日六 太郎 印刷実行

2017年度 前期

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						
2				ENGL102-12 英語Ⅱ E12【機 本 発行】N408 2単位		
3						
4	IREL101-05 国際関係論入 門(教養B)【III期 中】N305 2 単位	WMH101-05 世界近現代 史(教養A)【小中 資格予】15 44 2単位	ICUL101-05 国際文化論入 門(教養A)【小中 進人】152 3 2単位		JMH101-04 日本近現代史(教 養A)【基礎 履修】N306 2単位	
5		FYBM001-01 自主研修の基礎 1(教1)【小中 履修】103 5 2単位				
6						
7						

時間割表を閉じると、下図のように「履修登録が完了しました」と表示されます。



以上で、履修登録は完了です。学生時間割表はいつでも参照したり、印刷することができます。

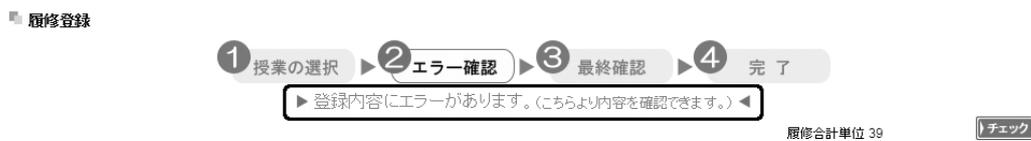
メインページの「時間割」→「学生時間割表」で参照できます。



個人情報	資格希望	履修登録	時間割	ホーム メール設 アンケート
------	------	------	------------	---------------------

登録完了後は、必ずログアウトし、利用したブラウザを終了させてください。ブラウザを開いたまま席を離れると、他人に情報を改ざんされる恐れがあります。

※エラーが表示される場合



「登録内容にエラーがあります。(こちらより内容を確認できます。)」をクリックします。
下図のようにエラー内容が表示されますので、確認して修正してください。

エラー内容の確認 閉じる

基本、条件エラー

授業コード	開講学期	開講曜日	科目名	単位	メッセージ
JMHI101-04	2017年度 前期	金4	日本近現代史(政策4)【濱屋 雅軌】	2	同じ名称の科目を複数選択することはできません。
JMHI101-05	2017年度 後期	木5	日本近現代史(教養A)【鈴木 哲】	2	同じ名称の科目を複数選択することはできません。

【注意点】

- 履修登録期間中、教務課では別システムにて再度詳細な「履修チェック」を実行します。そのため履修エラーが発生することがありますので、必ず履修登録期間内に「履修登録」画面にてエラーが出ていないかを確認してください。
また、エラーの内容により、掲示にて呼び出しを行なうことがありますので注意してください。
- 履修登録時や登録内容を修正する際には、必ず「履修登録が完了しました。」と表示されるまで操作してください。

最後にもう一度確認!!

- ① 前期科目と後期科目それぞれ登録していますか？（特に、後期科目を忘れていませんか？）
- ② 通年科目は登録されていますか？
- ③ 週に2度あるセメスター科目はきちんと登録されていますか？
- ④ クラス指定されている科目について、間違いなく登録していますか？
- ⑤ 集中講義（卒業論文、教育実習Ⅰなど）は、きちんと登録されていますか？
- ⑥ 登録した合計単位数が年間最高履修登録単位数を超えていませんか？
- ⑦ 自分の時間割をきちんと把握できますか？（確定した時間割表は、各自印刷して保管してください）

Ⅳ 卒業の要件

卒業に必要な単位

国際関係学部にて4年間以上在学し、以下の卒業条件をすべて満たし、教職課程科目・日本語教員養成科目を除き124単位以上修得した者に卒業資格が与えられ、学士（国際関係）の学位が授与されます。

国際総合政策学科／国際教養学科 科目区分	卒業条件		合計	
	必修単位数	自由選択		
基礎科目	必修4単位	22	124	
専門基礎科目	必修8単位			
総合教育科目	20単位以上			
外国語科目	▲8単位			
健康スポーツ科目	自由選択へ算入			
自学科共通専門科目	必修2単位含め62単位以上 (2年次よりコースを必ず1つ選択)			
	【コース専門基礎科目】 必修含め4単位以上			44単位 以上※
	【コース専門科目】 コースにより選択必修単位数 等の条件が異なる			
	【全コース共通専門科目】 地域研究 演習 情報 観光外国語 ジャパNSTAディーズ 専門外国語			
学部共通科目				
他学科共通専門科目				
相互履修科目				
単位互換科目				
教職課程科目 日本語教員養成科目	卒業に必要な124単位に含まれない			

- ① ▲英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・韓国語・日本語（外国人留学生のみ）の中から、いずれか1外国語を選択し8単位以上を修得しなければならない（ただし、母語を除く）。
- ② 自由選択科目として、以下の範囲から合計22単位以上修得しなければならない。
総合教育科目、外国語科目、健康スポーツ科目、自学科共通専門科目、学部共通科目、他学科共通専門科目、相互履修科目、単位互換科目
- ③ 相互履修科目・単位互換科目による修得単位と、外国の大学に留学し修得して本学部が認定した単位の他、外部機関等において履修した科目や検定試験の結果等により認定されたすべての単位において、卒業に必要な単位として算入できる単位数は、あわせて60単位以内である（学則第37条参照）。ただし、編入学生については別に定める。
- ④ 上記のほか、履修する科目の単位数・履修学年・履修方法等については、p.37～53に記載されているので、熟読の上、間違いのないようにすること。

V 履修上の注意点と科目

履修上の注意

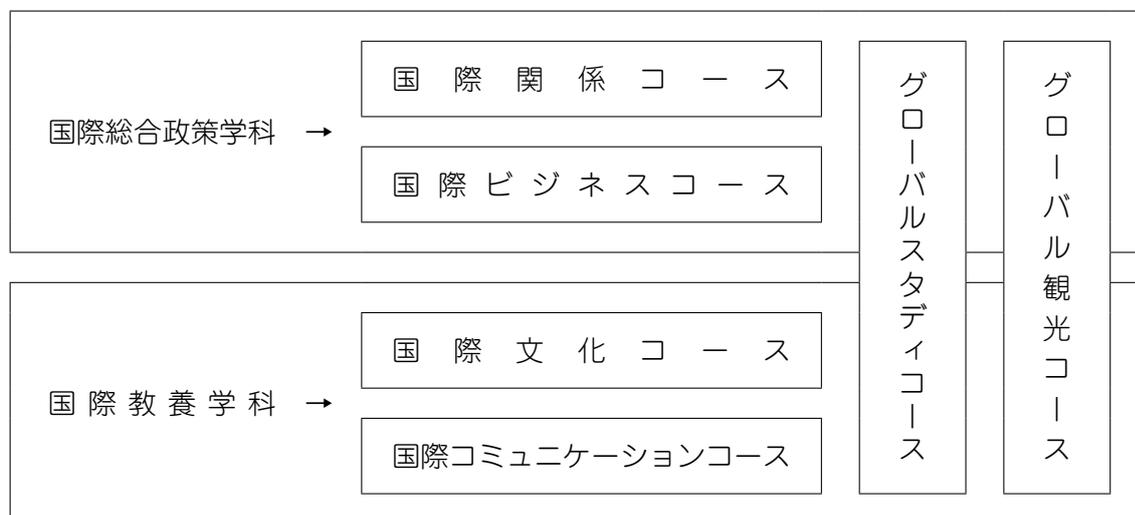
- ① すでに修得した科目について、再び履修することはできません。
- ② 上位学年に設置された科目は、その学年になるまで履修することはできません。
- ③ 開講科目の中には、その履修できる学生を学科・コース・クラスで指定する科目やその科目を履修するための条件が付されている科目があるので、本履修要覧、シラバス、時間割表及び掲示等をよく確認すること。
- ④ 開講科目によっては、教室収容人数の事情やコース選択の学生を優先するために、履修者数の制限を行う場合がある。また、開講科目の履修者が極端に少ない場合には、開講しない場合がある。

所属学科とコースの選択

本学部では、人材育成の目的を全うし、学科の教育目標に沿うような科目配置の調整並びに学科内のコース制をカリキュラム上導入しています。このため、全学生は2年次以降に自分の所属学科に設置されたコースを必ず1つ選択し、そのコースの履修条件に従い履修することが必要になります。

国際総合政策学科の学生は、国際関係コース、国際ビジネスコース、グローバルスタディコース、グローバル観光コースの4コース、国際教養学科の学生は、国際文化コース、国際コミュニケーションコース、グローバルスタディコース、グローバル観光コースの4コースが設置されています。なお、グローバルスタディコース、グローバル観光コースは両学科共通のコースです。

コースの選択については、1年次後期終了時に決めることになります。詳細は、別途掲示等で周知します。なお、コース選択後にコースを変更することはできません。



授業科目配置表（全学科共通）

科目区分	履修区分/条件		1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	必修		自主創造の基礎1 (2) 自主創造の基礎2 (2)			
総合教育科目	選択	※20単位以上修得	哲学(2) 世界の宗教(2) 政治学(2) 生命の科学(2)			
			倫理学(2) 世界の言語(2) 経済学(2) 情報論(2)			
外国語科目	選択必修	※いずれか1つの外国語を選択し8単位以上修得	歴史学(2) 文学(2) 商学(2) 調査統計論(2)			
			文化人類学(2) 社会学(2) 経営学(2) 科学思想史(2)			
健康スポーツ科目	選択		心理学(2) 法学(2) ジェンダーと社会(2)			
専門基礎科目	必修		芸術(2) 日本国憲法(2) 数理の世界(2)			
学科共通専門科目	コース	選択	英語Ⅰ(2) 英語Ⅱ(2) フランス語Ⅰ(2) フランス語Ⅱ(2) スペイン語Ⅰ(2) スペイン語Ⅱ(2) 日本語Ⅰ(2) 日本語Ⅱ(2)			
	研地	選択	英語Ⅲ(2) 英語Ⅳ(2) フランス語Ⅲ(2) フランス語Ⅳ(2) スペイン語Ⅲ(2) スペイン語Ⅳ(2) 日本語Ⅲ(2) 日本語Ⅳ(2)			
	情報	選択	ドイツ語Ⅰ(2) ドイツ語Ⅱ(2) 中国語Ⅰ(2) 中国語Ⅱ(2) 韓国語Ⅰ(2) 韓国語Ⅱ(2) (外国人留学生のみ)			
	外観	選択	ドイツ語Ⅲ(2) ドイツ語Ⅳ(2) 中国語Ⅲ(2) 中国語Ⅳ(2) 韓国語Ⅲ(2) 韓国語Ⅳ(2)			
	外専	選択	スポーツ科学と健康(2) スポーツ総合(1)			
学部共通科目	スポーツ交流	選択	国際関係論入門(2) 国際文化論入門(2) 日本近現代史(2) 世界近現代史(2)			
	資格外国語	選択	ビジネス英語Ⅰ (注)	2年次以降の学科共通専門科目については、次ページ以降の授業科目配置表で確認してください。		
特別教育	選択	国際交流 (外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2)				
学部共通科目	スポーツ交流	選択	情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)			
	資格外国語	選択	観光英語Ⅰ(1)			
学部共通科目	スポーツ交流	選択	複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)			
	資格外国語	選択	資格英語Ⅰ(1) 資格英語Ⅱ(1)	資格英語Ⅲ(1) 資格英語Ⅳ(1) 資格フランス語Ⅰ(1) 資格フランス語Ⅱ(1) 資格スペイン語Ⅰ(1) 資格スペイン語Ⅱ(1) 資格ドイツ語Ⅰ(1) 資格ドイツ語Ⅱ(1) 資格中国語Ⅰ(1) 資格中国語Ⅱ(1) 資格韓国語Ⅰ(1) 資格韓国語Ⅱ(1)		
特別教育	選択		学際研究Ⅰ(2) 学際研究Ⅱ(2) 特殊講義Ⅰ(2) 特殊講義Ⅱ(2)			

() 内の数字は単位数です

※ビジネス英語Ⅰは国際コミュニケーションコースのコース専門科目です。修得した単位は、国際総合政策学科生は他学科共通専門科目に分類され、国際教養学科の学生のうち、2年次に国際文化コース、グローバル観光コース、グローバルスタディコースのいずれかを選択した学生は自学科共通専門科目に分類され、2年次に国際コミュニケーションコースを選択した学生はコース専門科目に分類されます。

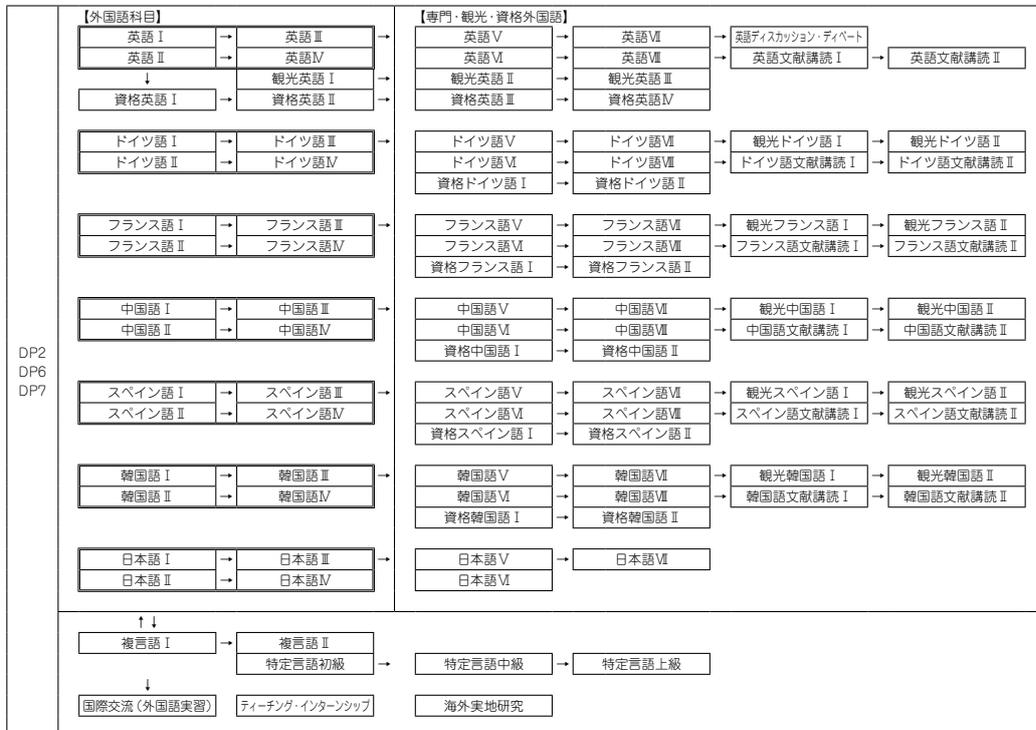
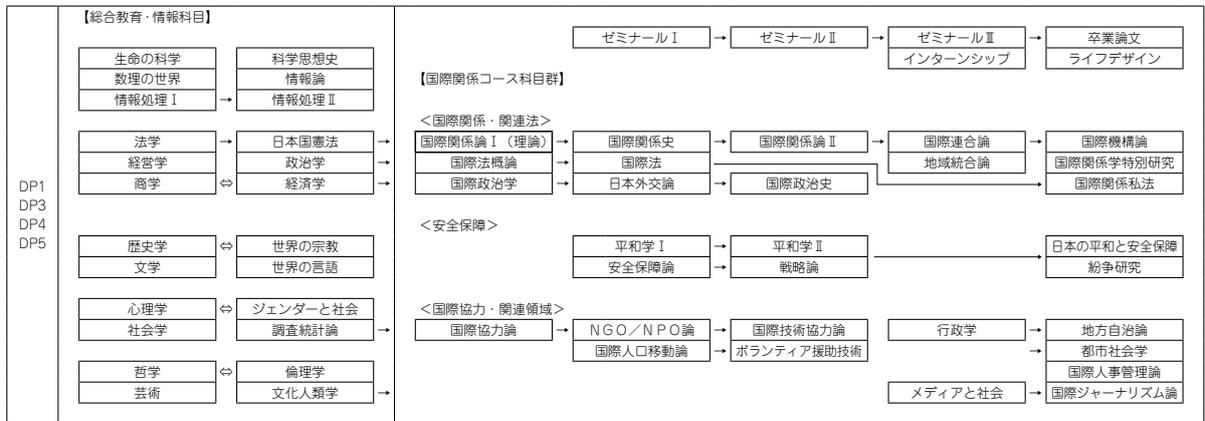
授業科目配置表 国際総合政策学科（国際関係コース）

科目区分	履修区分/条件	1年次	2年次	3年次	4年次	
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。						
コース専門基礎	必修		国際関係論Ⅰ(理論)(2)			
	選択	※必修含めて4単位以上修得	国際法概論(2) 国際政治学(2) 国際協力論(2)			
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない						
コース専門科目	A	※16単位以上修得	国際法(4) 国際関係史(4) 日本外交論(4)	国際関係論Ⅱ(4) 国際連合論(4) 国際政治史(4) 地域統合論(4)	国際機構論(4) 国際ジャーナリズム論(4) 国際関係私法(4) 国際関係学特別研究(4)	
	B	※8単位以上修得	平和学Ⅰ(4) 安全保障論(4)	戦略論(4) 平和学Ⅱ(4)	紛争研究(4) 日本の平和と安全保障(4)	
	C	※4単位以上修得	NGO/NPO論(4)	国際技術協力論(4) ボランティア援助技術(4) 行政学(4)	地方自治論(4) 国際人事管理論(4)	
	D	※4単位以上修得	国際人口移動論(4)	メディアと社会(4)	都市社会学(4)	
学科共通専門科目	地域研究	※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2)	地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)	
		必修			ライフデザイン(1)	
	演習	選択		ゼミナールⅠ(1)	ゼミナールⅡ(1) ゼミナールⅢ(1) インターンシップ(2)	卒業論文(4)
	情報	選択	情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)	情報処理Ⅱ(1)		
	観光外国語	選択	観光英語Ⅰ(1)	観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)	
ジャパニスタディーズ	選択		Japan Studies Ⅰ(宗教・思想)(2) Japan Studies Ⅱ(日本文学)(2) Japan Studies Ⅲ(文化史)(2) Japan Studies Ⅳ(日本社会)(2) Japan Studies Ⅴ(経済)(2) Japan Studies Ⅵ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan Studies Ⅶ (スペシャルレクチャー)(2) Japan Studies Ⅷ (スペシャルレクチャー)(2)		
専門外国語	選択	複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) スペイン語Ⅷ(1) 韓国語Ⅷ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)		
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。						

国際関係コースの教育目標

国際関係や国際協力の基礎を学び、国際社会の構造を多様な側面から捉える能力を習得することで、世界が直面する諸問題を解決できる国際的リーダーを育成することが目標である。

履修系統図 国際総合政策学科（国際関係コース）



ディプロマ・ポリシーに基づく修得すべき能力要素

- DP1：国際社会に適用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観
- DP2：国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識
- DP3：国際情勢を理解し、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力
- DP4：国際実務の現場で実務に即応した問題解決能力

- DP5：国際社会の各分野で提言できる政策立案能力
- DP6：多様な価値観の享受と寛容性を養い、多文化共生・日本の特質の理解力
- DP7：探究心を養い、外国語の理解力・発信力

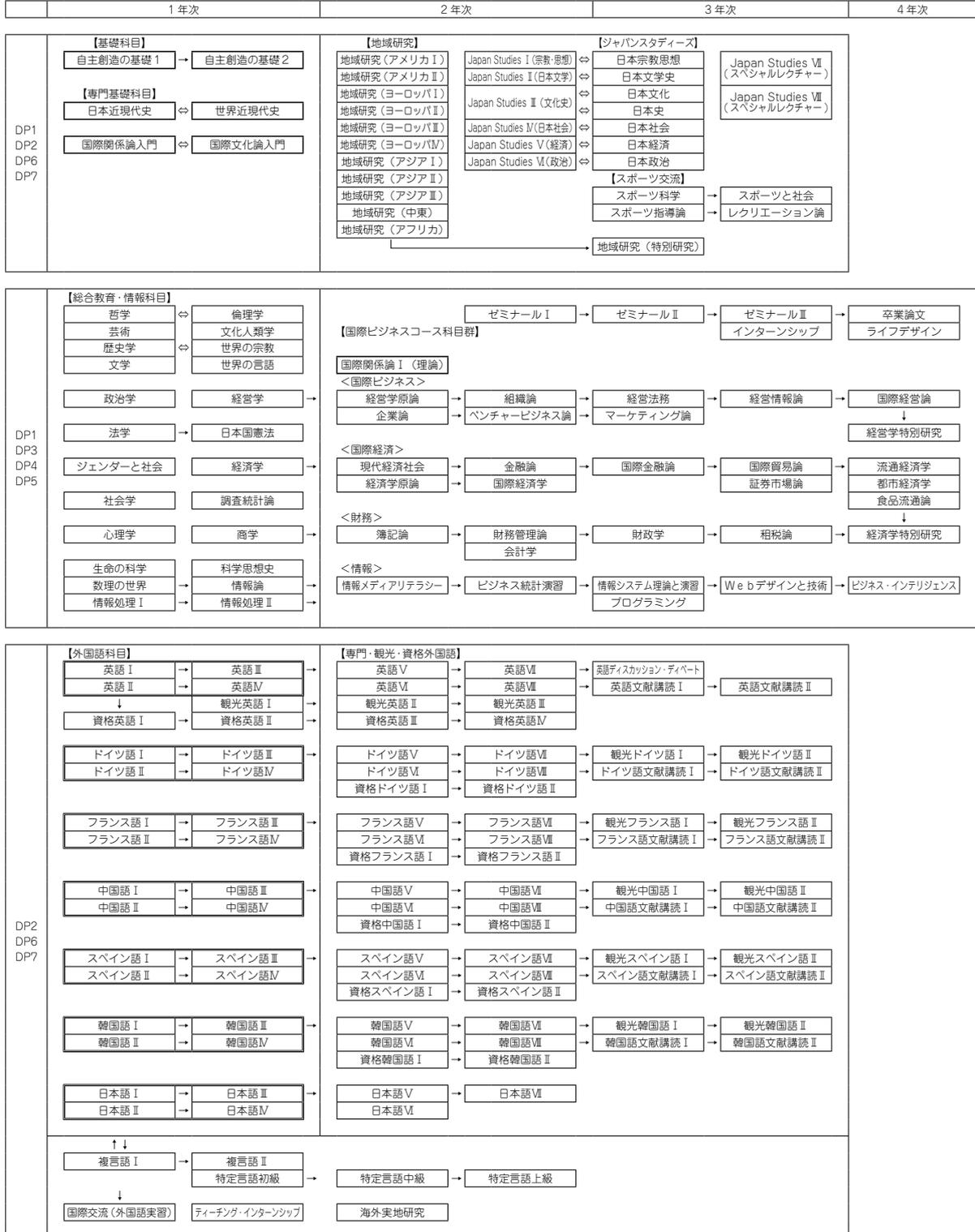
授業科目配置表 国際総合政策学科（国際ビジネスコース）

科目区分	履修区分/条件	1年次	2年次	3年次	4年次	
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。						
コース専門基礎	必修		国際関係論Ⅰ(理論)(2)			
	選択 ※必修含めて4単位以上修得		国際経済学(2) 財務管理論(2) 組織論(2)			
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない						
コース専門科目	A	※16単位以上修得	簿記論(4) 会計学(4) 経済学原論(4) 経営学原論(4) 金融論(4)	経営法務(4) マーケティング論(4) 国際金融論(4)		
	B	※12単位以上修得	現代経済社会(4) 企業論(4) ベンチャービジネス論(4)	財政学(4) 証券市場論(4) 租税論(4) 国際貿易論(4)	経済学特別研究(4) 流通経済学(4) 経営学特別研究(4) 都市経済学(4) ビジネス・インテリジェンス(4) 食品流通論(4)	
	C	※4単位以上修得	情報メディアリテラシー(4) ビジネス統計演習(1)	情報システム理論と演習(3) Webデザインと技術(3) プログラミング(1) 経営情報論(4)	国際経営論(2)	
学科共通専門科目	地理研究	※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2)	地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)	
			必修			ライフデザイン(1)
	演習	選択	ゼミナールⅠ(1)	ゼミナールⅡ(1) ゼミナールⅢ(1) インターンシップ(2)	卒業論文(4)	
	情報	選択	情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)	情報処理Ⅱ(1)		
全コース共通専門科目	観光外国語	選択	観光英語Ⅰ(1)	観光英語Ⅰ(1) 観光英語Ⅱ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)	
			選択	Japan Studies Ⅰ(宗教・思想)(2) Japan Studies Ⅱ(日本文学)(2) Japan Studies Ⅲ(文化史)(2) Japan Studies Ⅳ(日本社会)(2) Japan Studies Ⅴ(経済)(2) Japan Studies Ⅵ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan Studies Ⅶ (スペシャルレクチャー)(2) Japan Studies Ⅷ (スペシャルレクチャー)(2)	
	専門外国語	選択	複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) スペイン語Ⅷ(1) 韓国語Ⅷ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)	
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。						

国際ビジネスコースの教育目標

グローバル化する経済社会にあって、経済活動と市場の仕組みや企業組織と経営などの基礎と応用を体系的に学び、法制や国際政治等の視点も加えて国内外のビジネス動向を的確に把握して、国際レベルでビジネスを主導していける人材の育成が目標である。

履修系統図 国際総合政策学科 (国際ビジネスコース)



ディプロマ・ポリシーに基づく修得すべき能力要素
 DP1: 国際社会に適用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観
 DP2: 国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識
 DP3: 国際情勢を理解し、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力
 DP4: 国際実務の現場で実務に即応した問題解決能力
 DP5: 国際社会の各分野で提言できる政策立案能力
 DP6: 多様な価値観の享受と寛容性を養い、多文化共生・日本の特質の理解力
 DP7: 探究心を養い、外国語の理解力・発信力

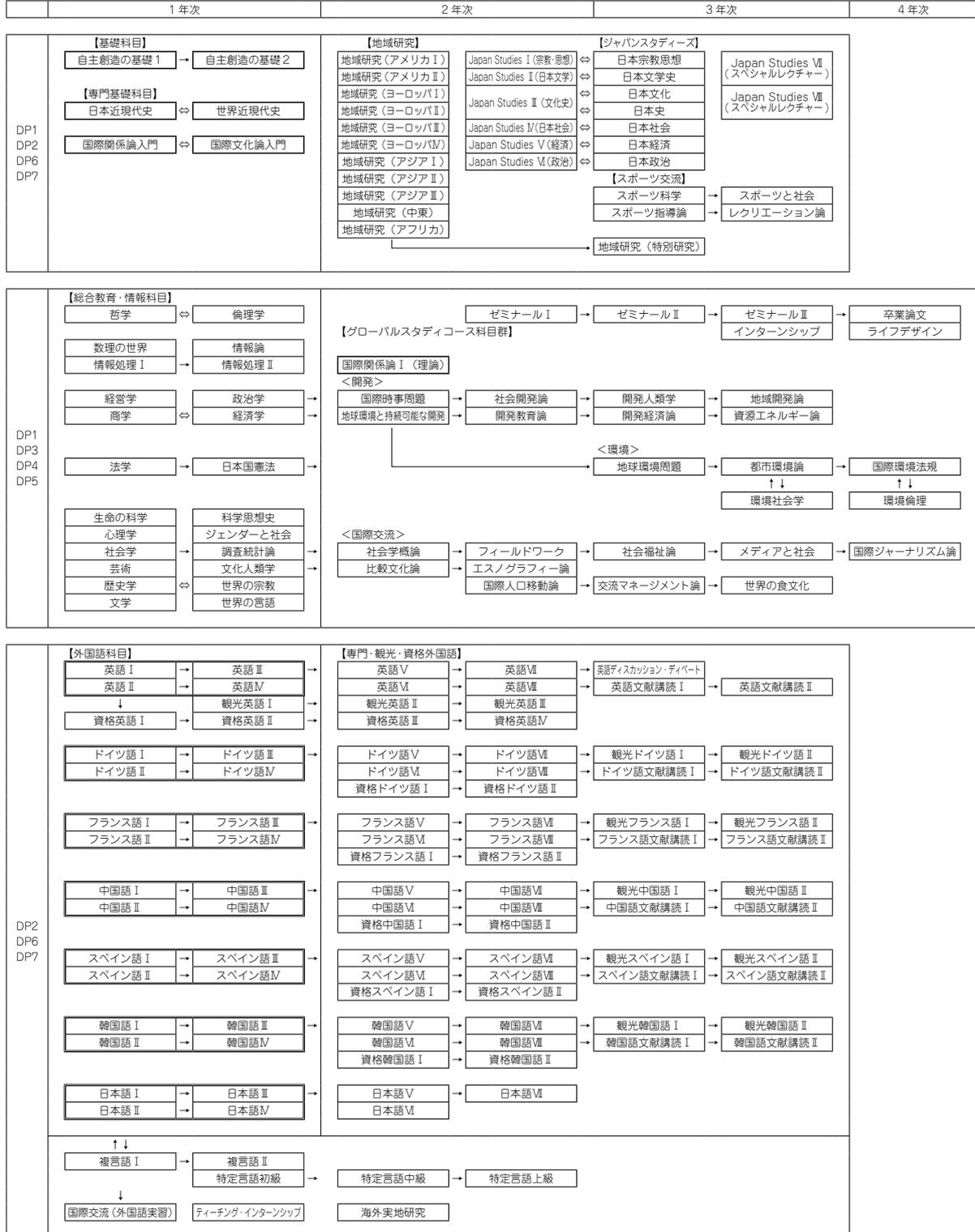
授業科目配置表 国際総合政策学科（グローバルスタディコース）

科目区分	履修区分/条件	1年次	2年次	3年次	4年次			
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。								
コース専門基礎	必修		国際関係論Ⅰ(理論)(2)					
	選択	※必修含めて4単位以上修得	地球環境と持続可能な開発(2) 国際時事問題(2) 社会学概論(2) 比較文化論(2)					
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない								
コース専門科目	A	※12単位以上修得	開発教育論(4) 社会開発論(4)	開発経済論(4) 地域開発論(4) 開発人類学(4) 資源エネルギー論(4) 交流マネジメント論(4)				
	B	※8単位以上修得		地球環境問題(4) 環境社会学(4) 都市環境論(4)	環境倫理(4) 国際環境法規(4)			
	C	※8単位以上修得	国際人口移動論(4) フィールドワーク(4) エスノグラフィー論(4)	社会福祉論(4) 世界の食文化(4) メディアと社会(4)	国際ジャーナリズム論(4)			
学科共通専門科目	地域研究	※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2)	地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)			
			必修				ライフデザイン(1)	
			選択		ゼミナールⅠ(1)	ゼミナールⅡ(1) ゼミナールⅢ(1) インターンシップ(2)	卒業論文(4)	
			情報	選択	情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)	情報処理Ⅱ(1)		
			観光外国語	選択	観光英語Ⅰ(1)	観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)	
ジャパンスタディーズ	選択		Japan Studies Ⅰ(宗教・思想)(2) Japan Studies Ⅱ(日本文学)(2) Japan Studies Ⅲ(文化史)(2) Japan Studies Ⅳ(日本社会)(2) Japan Studies Ⅴ(経済)(2) Japan Studies Ⅵ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan Studies Ⅶ (スペシャルレクチャー)(2) Japan Studies Ⅷ (スペシャルレクチャー)(2)				
専門外国語	選択	複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) スペイン語Ⅷ(1) 韓国語Ⅷ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)				
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。								

グローバルスタディコースの教育目標

現代社会の環境問題・人口問題・食糧問題などの諸問題を考える基礎である社会科学の知識を習得し、地域・国・世界における諸問題を分析・考察し、問題解決に向け積極的に自らの役割を果たせる人材の育成が目標である。

履修系統図 国際総合政策学科（グローバルスタディコース）



ディプロマ・ポリシーに基づく修得すべき能力要素
 DP1：国際社会に適用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観
 DP2：国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識
 DP3：国際情勢を理解し、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力
 DP4：国際実務の現場で実務に即応した問題解決能力
 DP5：国際社会の各分野で提言できる政策立案能力
 DP6：多様な価値観の享受と寛容性を養い、多文化共生・日本の特質の理解力
 DP7：探究心を養い、外国語の理解力・発信力

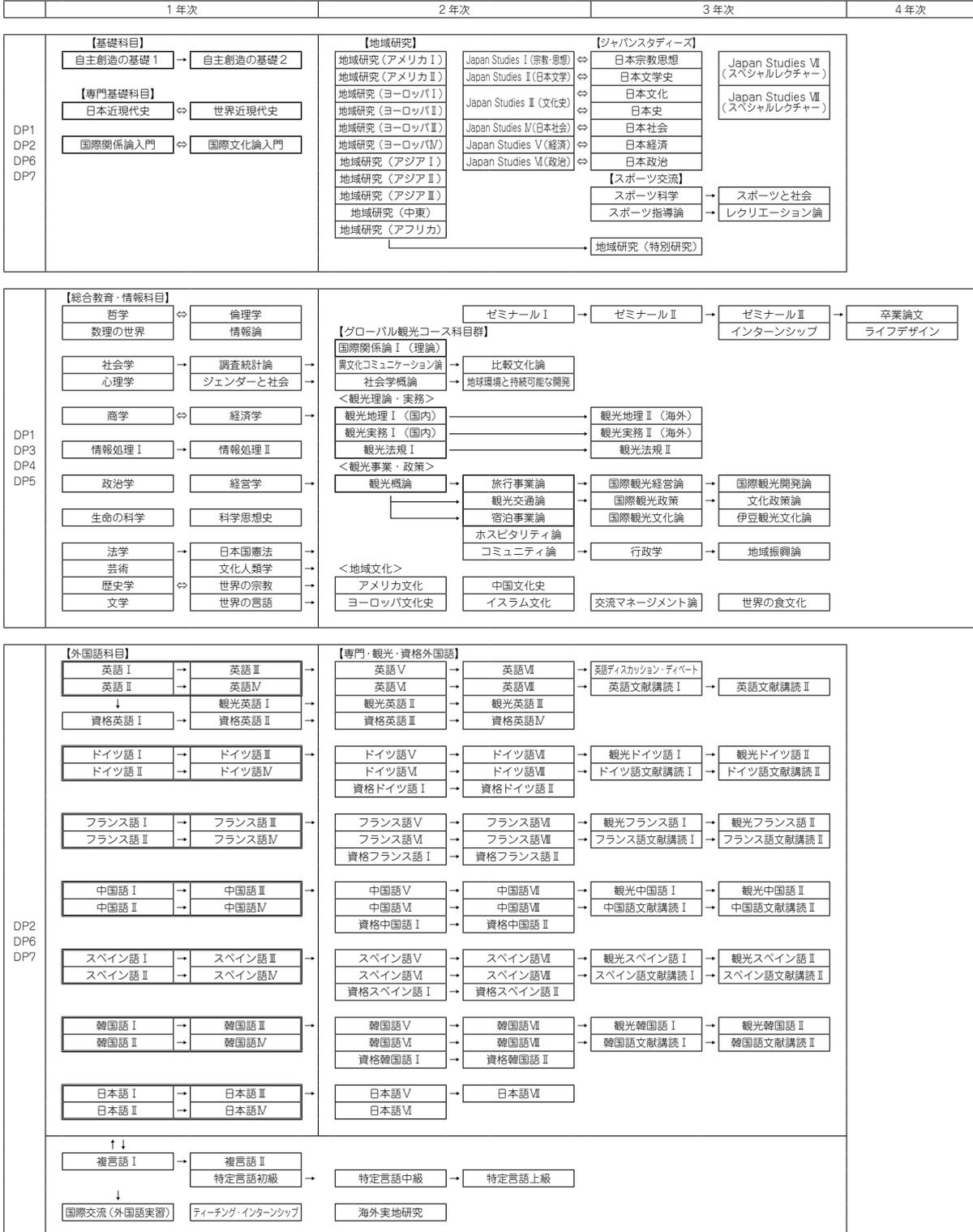
授業科目配置表 国際総合政策学科（グローバル観光コース）

科目区分	履修区分/条件	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。					
コース専門基礎	必修		国際関係論Ⅰ(理論)(2)		
	選択	※必修含めて4単位以上修得	地球環境と持続可能な開発(2) 異文化コミュニケーション論(2) 社会学概論(2) 比較文化論(2)		
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない					
コース専門科目	A	※14単位以上修得	観光法規Ⅰ(2) 観光地理Ⅰ(国内)(2) 観光実務Ⅰ(国内)(2)	観光法規Ⅱ(2) 国際観光経営論(4) 観光地理Ⅱ(海外)(2) 国際観光開発論(4) 観光実務Ⅱ(海外)(2) 国際観光政策(4) 国際観光文化論(4)	
	B	※14単位以上修得	観光概論(2) 旅行事業論(2) コミュニティ論(4) 宿泊事業論(2) ホスピタリティ論(2) 観光交通論(2)	行政学(4) 伊豆観光文化論(2) 文化政策論(4) 世界の食文化(4) 地域振興論(4)	
	C	※4単位以上修得	アメリカ文化(4) イスラム文化(4) ヨーロッパ文化史(4) 中国文化史(4)	交流マネージメント論(4)	
地域研究		※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2) 地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)	
	演習	必修			ライフデザイン(1)
情報	選択	情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)	情報処理Ⅱ(1)		
	選択	観光英語Ⅰ(1)	観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)	
観光外国語	選択				
	選択		観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)	
ジャパニスタディーズ	選択		Japan StudiesⅠ(宗教・思想)(2) Japan StudiesⅡ(日本文学)(2) Japan StudiesⅢ(文化史)(2) Japan StudiesⅣ(日本社会)(2) Japan StudiesⅤ(経済)(2) Japan StudiesⅥ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan StudiesⅦ (スペシャルレクチャー)(2) Japan StudiesⅧ (スペシャルレクチャー)(2)	
	選択	複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) スペイン語Ⅷ(1) 韓国語Ⅷ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)	
全コース共通専門科目	選択				
	選択				
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。					

グローバル観光コースの教育目標

21世紀における観光立国日本の実現を目指し、観光を通して異文化理解・国際交流を促進し相互の発展を図るため、観光政策・観光文化・観光経営・観光実務などの専門知識と技術を学び、国内外の観光旅行並びに観光産業の振興に寄与できる人材の育成が目標である。

履修系統図 国際総合政策学科（グローバル観光コース）



ディプロマ・ポリシーに基づく修得すべき能力要素

- DP1: 国際社会に適用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観
- DP2: 国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識
- DP3: 国際情勢を理解し、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力
- DP4: 国際実務の現場で実務に即応した問題解決能力

- DP5: 国際社会の各分野で提言できる政策立案能力
- DP6: 多様な価値観の享受と寛容性を養い、多文化共生・日本の特質の理解力
- DP7: 探究心を養い、外国語の理解力・発信力

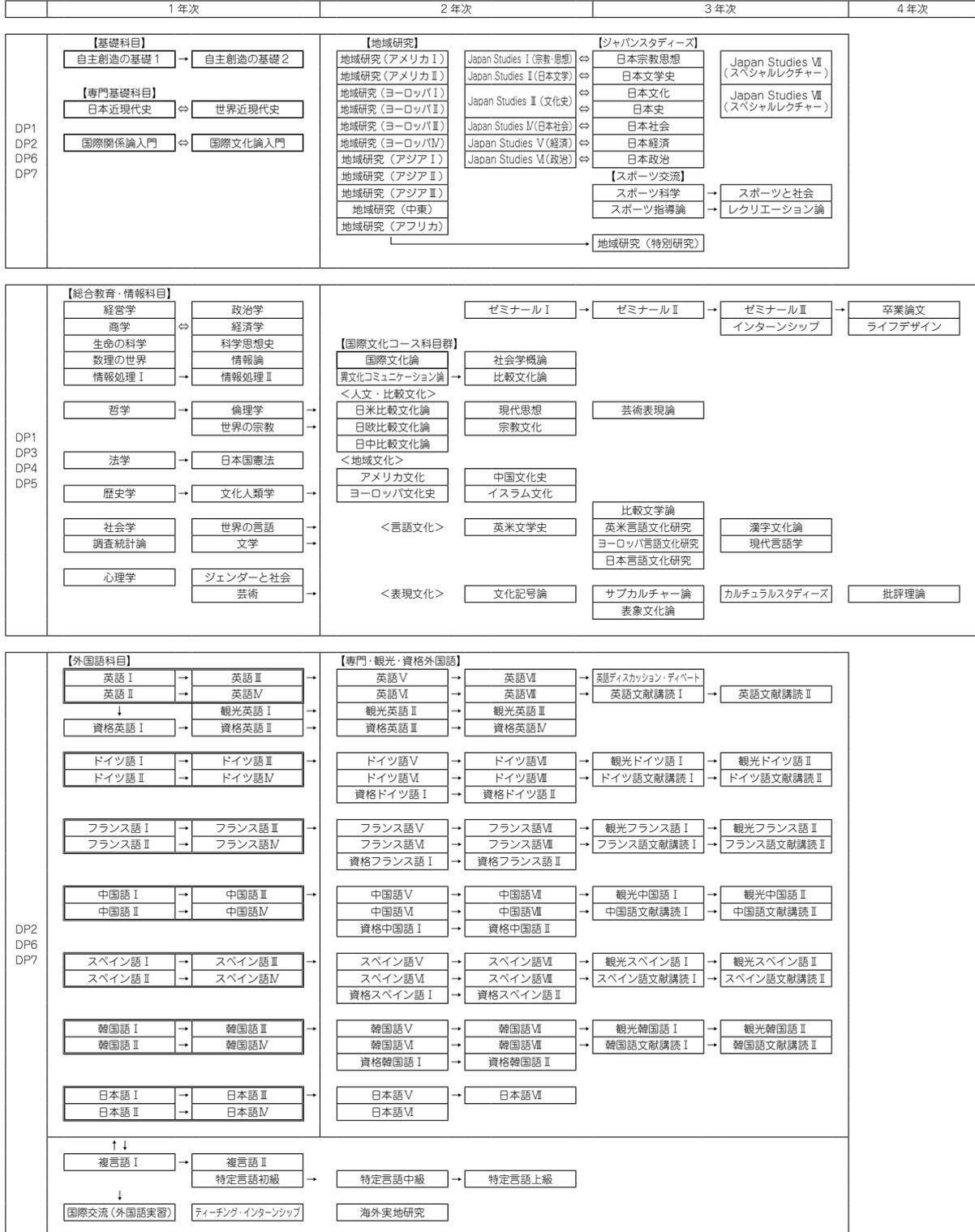
授業科目配置表 国際教養学科（国際文化コース）

科目区分	履修区分/条件	1年次	2年次	3年次	4年次
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。					
コース専門基礎	必修		国際文化論(2)		
	※必修含めて4単 位以上修 得 選択		比較文化論(2) 異文化コミュニケーション論(2) 社会学概論(2)		
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない					
コース専門科目	A	※4単位以上修得	日米比較文化論(4) 宗教文化(4) 日欧比較文化論(4) 現代思想(4) 日中比較文化論(4)	芸術表現論(4)	
	B	※4単位以上修得	アメリカ文化(4) 中国文化史(4) ヨーロッパ文化史(4) イスラム文化(4)		
	C	※4単位以上修得	英米文学史(2)	比較文学論(4) 日本語文化研究(4) 現代言語学(4) 漢字文化論(4) 英米言語文化研究(4) ヨーロッパ言語文化研究(4)	
	D	※4単位以上修得	文化記号論(4)	サブカルチャー論(4) 表象文化論(4) カルチュラルスタディーズ(4)	批評理論(4)
地域研究		※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2)	地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)
	必修				ライフデザイン(1)
演習	必修				
	選択		ゼミナールⅠ(1)	ゼミナールⅡ(1) ゼミナールⅢ(1) インターンシップ(2)	卒業論文(4)
情報	必修				
	選択	情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)	情報処理Ⅱ(1)		
観光外国語	必修				
	選択	観光英語Ⅰ(1)	観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)	
ジャパニスタディーズ	必修				
	選択		Japan Studies Ⅰ(宗教・思想)(2) Japan Studies Ⅱ(日本文学)(2) Japan Studies Ⅲ(文化史)(2) Japan Studies Ⅳ(日本社会)(2) Japan Studies Ⅴ(経済)(2) Japan Studies Ⅵ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan Studies Ⅶ (スペシャルレクチャー)(2) Japan Studies Ⅷ (スペシャルレクチャー)(2)	
専門外国語	必修				
	選択	複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) スペイン語Ⅷ(1) 韓国語Ⅷ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)	
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。					

国際文化コースの教育目標

様々な国と地域に息づく歴史・芸術・思想・宗教などの多様な文化を学びつつ自国の文化理解を深め、より広く多角的な視点から、地域・国・世界、そこに生きる人々を捉えることのできる、旺盛な探求心と創造的な思考力を備えた知の人材の育成が目標である。

履修系統図 国際教養学科 (国際文化コース)



ディプロマ・ポリシーに基づく修得すべき能力要素
 DP1: 国際社会に適用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観
 DP2: 国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識
 DP3: 国際情勢を理解し、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力
 DP4: 国際実務の現場で実務に即応した問題解決能力
 DP5: 国際社会の各分野で提言できる政策立案能力
 DP6: 多様な価値観の享受と寛容性を養い、多文化共生・日本の特質の理解力
 DP7: 探求心を養い、外国語の理解力・発信力

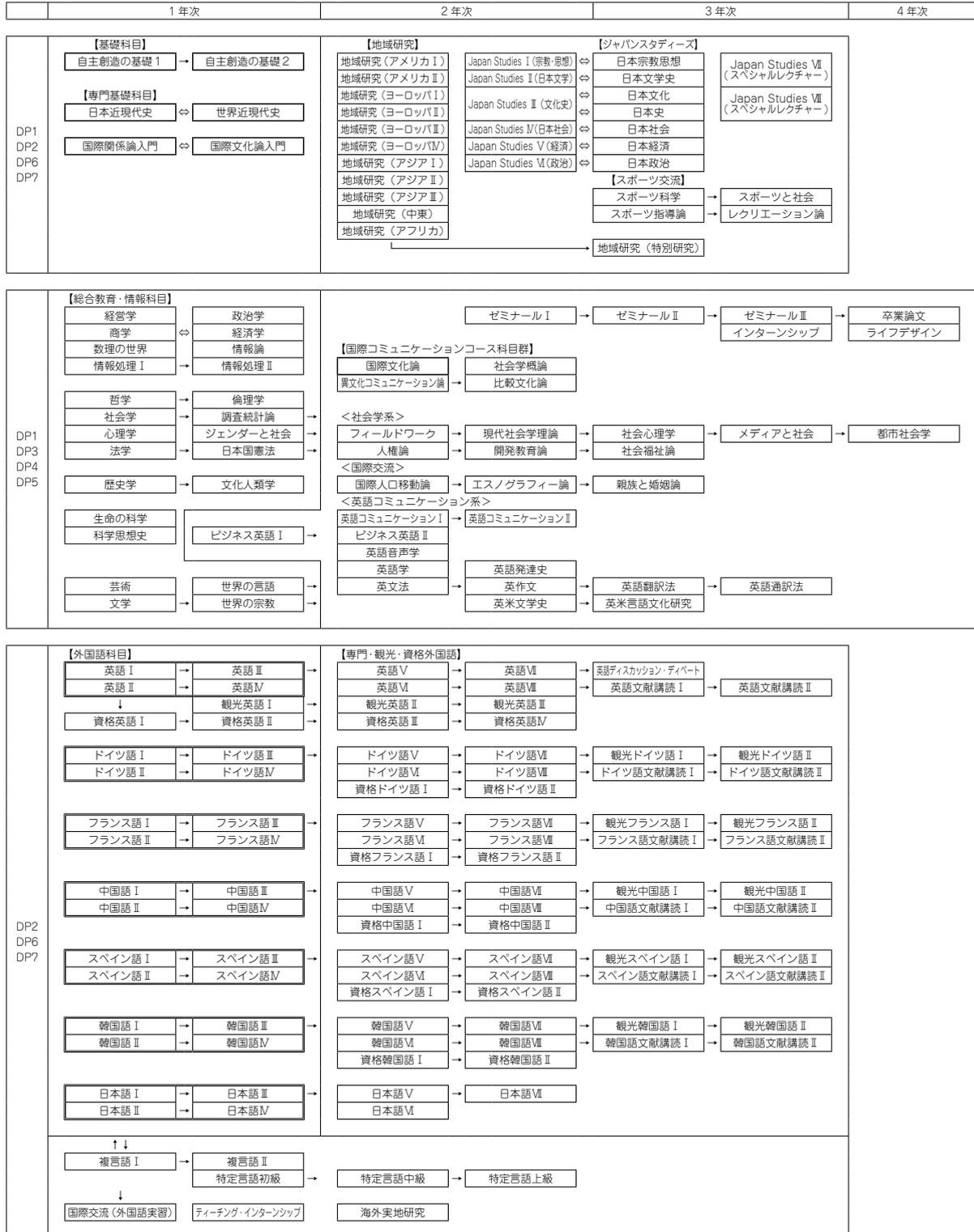
授業科目配置表 国際教養学科 (国際コミュニケーションコース)

科目区分	履修区分/条件	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。						
コース専門基礎	必修		国際文化論(2)			
	選択	※必修含めて4単位以上修得	比較文化論(2) 異文化コミュニケーション論(2) 社会学概論(2)			
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない						
コース専門科目	A	※4単位以上修得	フィールドワーク(4) 人権論(4) 開発教育論(4) 現代社会学理論(4)	メディアと社会(4) 社会福祉論(4) 社会心理学(4)	都市社会学(4)	
	B	※4単位以上修得	国際人口移動論(4) エスノグラフィ論(4)	親族と婚姻論(4)		
	C		ビジネス英語Ⅰ(1)	ビジネス英語Ⅱ(1) 英文法(2) 英米文学史(2) 英作文(2) 英語学(2) 英語発達史(2) 英語音声学(2) 英語コミュニケーションⅠ(2) 英語コミュニケーションⅡ(2)	英米言語文化研究(4) 英語翻訳法(2) 英語通訳法(2)	
地域研究		※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2)	地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)	
	演習	必修			ライフデザイン(1)	
情報	必修			ゼミナールⅡ(1) ゼミナールⅢ(1)	卒業論文(4)	
	選択		情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)	ゼミナールⅠ(1) ゼミナールⅡ(1) インターンシップ(2)		
観光外国語	必修		観光英語Ⅰ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)		
	選択		観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)			
全コース共通専門科目	必修			Japan StudiesⅠ(宗教・思想)(2) Japan StudiesⅡ(日本文学)(2) Japan StudiesⅢ(文化史)(2) Japan StudiesⅣ(日本社会)(2) Japan StudiesⅤ(経済)(2) Japan StudiesⅥ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan StudiesⅦ (スペシャルレクチャー)(2) Japan StudiesⅧ (スペシャルレクチャー)(2)	
	選択					
専門外国語	必修		複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)	
	選択					
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。						

国際コミュニケーションコースの教育目標

自国の文化や社会についての深い理解に基づき、国際社会の多様な他者と協働・共生するために必要なコミュニケーション能力を習得した人材の育成が目標である。

履修系統図 国際教養学科（国際コミュニケーションコース）



ディプロマ・ポリシーに基づく修得すべき能力要素

- DP1：国際社会に適用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観
- DP2：国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識
- DP3：国際情勢を理解し、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力
- DP4：国際実務の現場で実務に即応した問題解決能力

- DP5：国際社会の各分野で提言できる政策立案能力
- DP6：多様な価値観の享受と寛容性を養い、多文化共生・日本の特質の理解力
- DP7：探究心を養い、外国語の理解力・発信力

授業科目配置表 国際教養学科（グローバルスタディコース）

科目区分	履修区分/条件	1年次	2年次	3年次	4年次
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。					
コース専門基礎	必修		国際文化論(2)		
	選択	※必修含めて4単位以上修得	地球環境と持続可能な開発(2) 国際時事問題(2) 社会学概論(2) 比較文化論(2)		
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない					
コース専門科目	A	※12単位以上修得	開発教育論(4) 社会開発論(4)	開発経済論(4) 地域開発論(4) 開発人類学(4) 資源エネルギー論(4) 交流マネジメント論(4)	
	B	※8単位以上修得		地球環境問題(4) 環境社会学(4) 都市環境論(4)	環境倫理(4) 国際環境法規(4)
	C	※8単位以上修得	国際人口移動論(4) フィールドワーク(4) エスノグラフィ論(4)	社会福祉論(4) 世界の食文化(4) メディアと社会(4)	国際ジャーナリズム論(4)
地域研究		※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2)	地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)
	演習	必修			ライフデザイン(1)
情報	必修				
	選択		ゼミナールⅠ(1)	ゼミナールⅡ(1) ゼミナールⅢ(1) インターンシップ(2)	卒業論文(4)
観光外国語	必修		情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)		
	選択		観光英語Ⅰ(1)	観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)
全コース共通専門科目	必修				
	選択		Japan Studies Ⅰ(宗教・思想)(2) Japan Studies Ⅱ(日本文学)(2) Japan Studies Ⅲ(文化史)(2) Japan Studies Ⅳ(日本社会)(2) Japan Studies Ⅴ(経済)(2) Japan Studies Ⅵ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan Studies Ⅶ (スペシャルレクチャー)(2) Japan Studies Ⅷ (スペシャルレクチャー)(2)	
専門外国語	必修		複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) スペイン語Ⅷ(1) 韓国語Ⅷ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)
	選択				
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。					

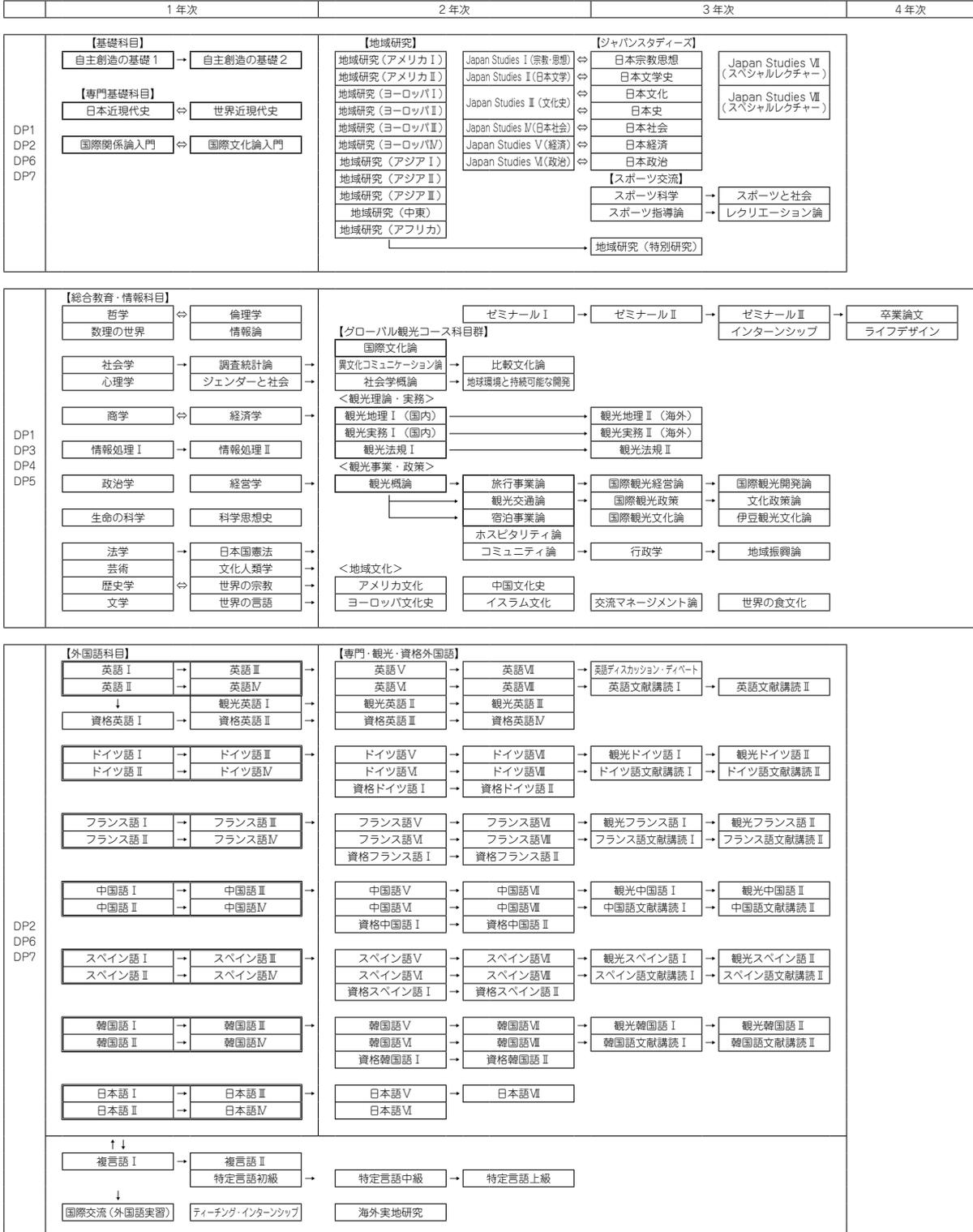
授業科目配置表 国際教養学科（グローバル観光コース）

科目区分	履修区分/条件	1年次	2年次	3年次	4年次
※学科共通専門科目のうち、必修科目を含めて62単位以上を修得しなければならない。					
コース専門基礎	必修		国際文化論(2)		
	選択	※必修含めて4単位以上修得	地球環境と持続可能な開発(2) 異文化コミュニケーション論(2) 社会学概論(2) 比較文化論(2)		
※コース専門基礎科目並びにコース専門科目は、44単位以上を取得しなければならない					
コース専門科目	A	※14単位以上修得	観光法規Ⅰ(2) 観光地理Ⅰ(国内)(2) 観光実務Ⅰ(国内)(2)	観光法規Ⅱ(2) 国際観光経営論(4) 観光地理Ⅱ(海外)(2) 国際観光開発論(4) 観光実務Ⅱ(海外)(2) 国際観光政策(4) 国際観光文化論(4)	
	B	※14単位以上修得	観光概論(2) 旅行事業論(2) コミュニティ論(4) 宿泊事業論(2) ホスピタリティ論(2) 観光交通論(2)	行政学(4) 伊豆観光文化論(2) 文化政策論(4) 世界の食文化(4) 地域振興論(4)	
	C	※4単位以上修得	アメリカ文化(4) イスラム文化(4) ヨーロッパ文化史(4) 中国文化史(4)	交流マネジメント論(4)	
地域研究		※6単位以上修得	国際交流(外国語実習)(2) ティーチング・インターンシップ(2) 地域研究(アメリカⅠ)(2) 地域研究(アメリカⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅠ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅡ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅢ)(2) 地域研究(ヨーロッパⅣ)(2) 地域研究(アジアⅠ)(2) 地域研究(アジアⅡ)(2) 地域研究(アジアⅢ)(2) 地域研究(中東)(2) 海外実地研究(1) 地域研究(アフリカ)(2)	地域研究(特別研究)(2)	
	演習	必修			ライフデザイン(1)
情報	必修			ゼミナールⅡ(1) ゼミナールⅢ(1) インターンシップ(2)	卒業論文(4)
	選択	情報処理Ⅰ(1) 情報処理Ⅱ(1)	情報処理Ⅱ(1)		
観光外国語	必修		観光英語Ⅰ(1)	観光ドイツ語Ⅰ(1) 観光ドイツ語Ⅱ(1) 観光フランス語Ⅰ(1) 観光フランス語Ⅱ(1) 観光中国語Ⅰ(1) 観光中国語Ⅱ(1) 観光スペイン語Ⅰ(1) 観光スペイン語Ⅱ(1) 観光韓国語Ⅰ(1) 観光韓国語Ⅱ(1)	
	選択	観光英語Ⅰ(1)	観光英語Ⅱ(1) 観光英語Ⅲ(1)		
ジャパニスタディーズ	必修		Japan StudiesⅠ(宗教・思想)(2) Japan StudiesⅡ(日本文学)(2) Japan StudiesⅢ(文化史)(2) Japan StudiesⅣ(日本社会)(2) Japan StudiesⅤ(経済)(2) Japan StudiesⅥ(政治)(2)	日本宗教思想(2) 日本文化(2) 日本文学史(2) 日本史(2) 日本社会(2) 日本経済(2) 日本政治(2) Japan StudiesⅦ (スペシャルレクチャー)(2) Japan StudiesⅧ (スペシャルレクチャー)(2)	
	選択				
専門外国語	必修		複言語Ⅰ(1) 複言語Ⅱ(1) 特定言語初級(2)	英語Ⅴ(1) ドイツ語Ⅴ(1) 英語Ⅵ(1) ドイツ語Ⅵ(1) 英語Ⅶ(1) ドイツ語Ⅶ(1) 英語Ⅷ(1) ドイツ語Ⅷ(1) フランス語Ⅴ(1) 中国語Ⅴ(1) フランス語Ⅵ(1) 中国語Ⅵ(1) フランス語Ⅶ(1) 中国語Ⅶ(1) フランス語Ⅷ(1) 中国語Ⅷ(1) スペイン語Ⅴ(1) 韓国語Ⅴ(1) スペイン語Ⅵ(1) 韓国語Ⅵ(1) スペイン語Ⅶ(1) 韓国語Ⅶ(1) スペイン語Ⅷ(1) 韓国語Ⅷ(1) 日本語Ⅴ(2) 特定言語中級(2) 日本語Ⅵ(2) 特定言語上級(2) 日本語Ⅶ(2)	英語ディスカッション・ディベート(1) 英語文献講読Ⅰ(1) 英語文献講読Ⅱ(1) ドイツ語文献講読Ⅰ(1) ドイツ語文献講読Ⅱ(1) フランス語文献講読Ⅰ(1) フランス語文献講読Ⅱ(1) 中国語文献講読Ⅰ(1) 中国語文献講読Ⅱ(1) スペイン語文献講読Ⅰ(1) スペイン語文献講読Ⅱ(1) 韓国語文献講読Ⅰ(1) 韓国語文献講読Ⅱ(1)
	選択				
※自学科他コース専門科目を履修した場合には、自学科専門科目として算入されます。					

グローバル観光コースの教育目標

21世紀における観光立国日本の実現を目指し、観光を通して異文化理解・国際交流を促進し相互の発展を図るため、観光政策・観光文化・観光経営・観光実務などの専門知識と技術を学び、国内外の観光旅行並びに観光産業の振興に寄与できる人材の育成が目標である。

履修系統図 国際教養学科（グローバル観光コース）



ディプロマ・ポリシーに基づく修得すべき能力要素

- DP1: 国際社会に適用する豊かな知識と幅広い教養力に基づく高い倫理観
- DP2: 国際関係・国際文化を理解し、専門分野における基本的な知識
- DP3: 国際情勢を理解し、国際社会の各分野で活躍・貢献できる能力
- DP4: 国際実務の現場で実務に即応した問題解決能力

- DP5: 国際社会の各分野で提言できる政策立案能力
- DP6: 多様な価値観の享受と寛容性を養い、多文化共生・日本の特質の理解力
- DP7: 探究心を養い、外国語の理解力・発信力

外国語の履修

外国語科目（〇〇語Ⅰ～Ⅳ）【1年次開講科目】

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語、日本語は、Ⅰ～Ⅳまで同時またはⅠから順に履修してください。なお、いずれか1外国語を選択し8単位以上(Ⅰ～Ⅳすべて)を修得しなければ卒業できません。

2年次以降に新規に履修する場合は、別途掲示される外国語事前登録期間に手続きが必要になるので注意してください。

外国人留学生が日本語を履修する場合を除き、1年次に2言語を履修する場合は必ず英語を含めなければなりません。

専門外国語（〇〇語Ⅴ～Ⅷ）【2年次開講科目】

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語のⅤ～Ⅷを履修するには、Ⅰ～Ⅳを履修登録済であり、そのうち3科目以上修得していなければなりません。ただし、英語Ⅴ～Ⅷについては、TOEIC® 公開テスト400点またはTOEIC® -IP 400点以上を取得していれば履修することができます。その場合は、スコアを証明できる書類を前期履修登録開始前に教務課に提出してください。また、英語Ⅶを履修するには英語Ⅴを、英語Ⅷを履修するには英語Ⅵを修得していなければなりません。

日本語Ⅴ～Ⅶは、2年次以降に履修可能とする。

専門外国語（特定言語）

特定言語はロシア語、アラビア語、スワヒリ語、モンゴル語、インドネシア語、ベンガル語、マレー語などの開講を予定していますが、年度によっては開講できない語種もありますので、履修登録時に確認してください。特定言語は1言語を選択し、初級から上級まで同時または初級から順に履修してください。なお、特定言語は卒業までに2言語以上履修することはできません。

資格外国語

資格外国語は、各種検定試験やそのレベルによって複数開講されることがあります。必ずシラバスで授業内容、履修条件を確認してから履修するようにしてください。なお、同一科目名で授業内容が違う場合、その科目を履修することはできません。(例：「資格英語Ⅰ【英検】」と「資格英語Ⅰ【TOEFL】」は履修することができません。)

観光外国語・外国語文献講読

観光外国語と外国語文献講読については、シラバスで授業内容、履修条件を確認してから履修するようにしてください。

ゼミナール・卒業論文

卒業論文は、国際関係学部で学んだ成果を集大成するものです。卒業論文の指導と評価を受けるためには、原則として同一教員のゼミナールを履修し、その教員の指導のもとで卒業論文を作成してください。

●ゼミナール担当教員の決定

- ・各自が研究したいテーマや対象にしたい地域、使用言語及び担当教員の専攻分野を考慮して、履修前に担当教員と相談し、了承を得て決定します。できるだけ早い時期に研究テーマを絞り、関連する専門科目を履修したうえで、希望する担当教員を決めることが望まれます。
- ・2年次前期にゼミナールの履修に関するガイダンスを行います。ゼミナール及び卒業論文に関する詳細は、このガイダンスでお知らせします。

●ゼミナール・卒業論文の履修条件

- ・ゼミナールⅠ・ゼミナールⅡ・ゼミナールⅢ・卒業論文は選択科目です。
- ・卒業論文は、3年終了時の卒業に必要な単位数の合計が、76単位以上無ければ履修できません。

●卒業論文の提出

- ・卒業論文は、1月中旬の指定された日時に、教務課に提出してください。この指定された日時以外は、いかなる理由があっても受理されません。
- ・「卒業論文」（4単位）の履修希望者は4年次の年度初め（履修登録期間内）に必ず履修登録を行ってください。履修登録のない「卒業論文」については受理できませんので、注意してください。

インターンシップ

●インターンシップ

- ・インターンシップは講義や演習等で学んだ諸知識を、実際の企業活動で体験することにより、学生個人の認識に昇華・定着させる科目です。
 - a 課題発見のための学習ができる。
 - b 学生から社会人への自覚を促すことができる。
 - c 企業の人材育成への要請と大学教育との調整ができる。
 - d 企業と大学の諸交流を深めることができる。

●実習期間とタイプは次の通りとします。

- ・一人1日8時間×10日（2週間）の実習を一実習とします。
- ・集中実習タイプとは、夏季・春季等の休暇中に実施するものです。
- ・その他の実習タイプ

●実習条件

- ・実習先企業は原則として大学と契約した企業です。
- ・学生が個人的に交渉した企業でも、大学の定める基準に適合し、契約すれば対象として認めます。
- ・実習日及び時間は実習先企業の諸規定によります。
- ・日当及び手当は原則として支給されません。
- ・通勤中や実習中に発生した通常の事故や損害については、原則として大学が負担することとします。

●受講の方法と手続き

- ・受講者は、4月の履修登録期間中に「インターンシップ」を履修登録してください。また、日程・手続き・受け入れ企業先に関するガイダンス日程については、4月～5月に掲示します。
- ・受け入れ企業確定後、実習先企業との調整を担当教員から受け、実習日程を調整します。
- ・**指導教員による個別指導**を実施します。また、ビジネスマナー講座もしくはそれに相当する措置を実施しますので、インターンシップ前に必ず受講してください。なお受講しない場合、実習を許可しない場合があります。
- ・その後の日程に従ってインターンシップを実施します。
- ・インターンシップ終了後、報告会を実施しますので、必ず出席してください。（11月下旬～12月上旬）

●単位認定

- ・インターンシップ期間中は企業担当者の指示により各種業務に従事してください。
- ・毎日、実習日誌を作成して企業担当指導者に提出し、点検を受けてください。
- ・実習期間終了後2週間以内に、実習報告書及び課題レポートを作成し、日誌、証明書を添えて、指導教員に提出してください。
- ・指導教員が、提出各種書類及び実習先指導担当者報告書を審査し、総合的に評価し、単位を認定します。

国際交流（外国語実習）

「国際交流（外国語実習）」科目は、語学の実践力を向上させる目的で、日本大学及び国際関係学部が外国の大学などで実施する短期海外研修に参加し、一定の成果を修めた者に対して単位を付与するものです。

① 対象となる短期海外研修

(1) 日本大学本部が実施する短期海外研修（2017年4月現在）

学習言語	地域	研修先	研修期間
英語	イギリス	ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ・サマースクール	8月上旬～9月上旬
英語	アメリカ	エリザベスタウン・カレッジ・サマースクール	8月上旬～8月下旬
英語	オーストラリア	ボンド大学英語研修機関	2月上旬～3月中旬

上記研修プログラムは、日本大学本部が取扱窓口となりますので、本部国際交流課ウェブサイトにて当該年度の募集要項を確認の上、直接申込み手続きを取ってください。なお、参加者の募集については、国際教育センター掲示板などでも告知します。

(2) 日本大学国際関係学部・短期大学部(三島校舎)が実施を予定している短期海外語学研修（2017年度予定）

学習言語	地域	研修先	研修期間
英語	アメリカ	ストーニーブルック大学	8月上旬～8月中旬
		TIEC (Texas International Education Consortium)	2月上旬～3月上旬
		ハワイ大学	2月上旬～2月下旬
	カナダ	トロント大学	8月上旬～8月下旬
中国語	中国	同濟大学外国語学院	8月上旬～8月下旬
ドイツ語	ドイツ	フライブルク大学	8月上旬～8月下旬
フランス語	フランス	西カトリック大学	8月上旬～8月下旬
スペイン語	スペイン	サラマンカ大学	8月上旬～8月下旬

- ・履修していない言語の地域に参加希望の学生は、担当教員と事前に相談してください。
- ・参加希望者が少数の場合は、実施されないことがあります。
- ・各年度の研修期間、研修内容、申込手続方法、参加費用等の詳細は、UNIPA、国際教育センター掲示板、短期海外語学研修説明会で説明します。不明な点については国際教育センターへお問い合わせください。

② 履修できる学年 1年次から4年次まで履修できます。

③ 成績評価

日本大学が実施する短期海外研修は、教授会で審議の上、1回に限り単位認定します。認定された単位は、一年間に履修できる最高単位には含みません。また、日本大学国際関係学部が実施する短期海外語学外研修は、各地域担当教員が成績評価を行います。

※「国際交流（外国語実習）」（2単位）の履修希望者は原則として、留学を希望する年度初めの履修登録期間内に必ず履修登録を行ってください。なお、研修に参加しなかった場合は、後期の履修登録科目の削除・追加期間に履修登録を削除してください。履修登録期間に履修登録をできなかった場合、後期履修登録の削除・追加期間に自分で履修登録をしてください。後期に募集を行う海外研修（ボンド大学、TIEC、ハワイ大学）については後期の履修登録科目の削除・追加期間に追加登録することができます。

相互履修科目

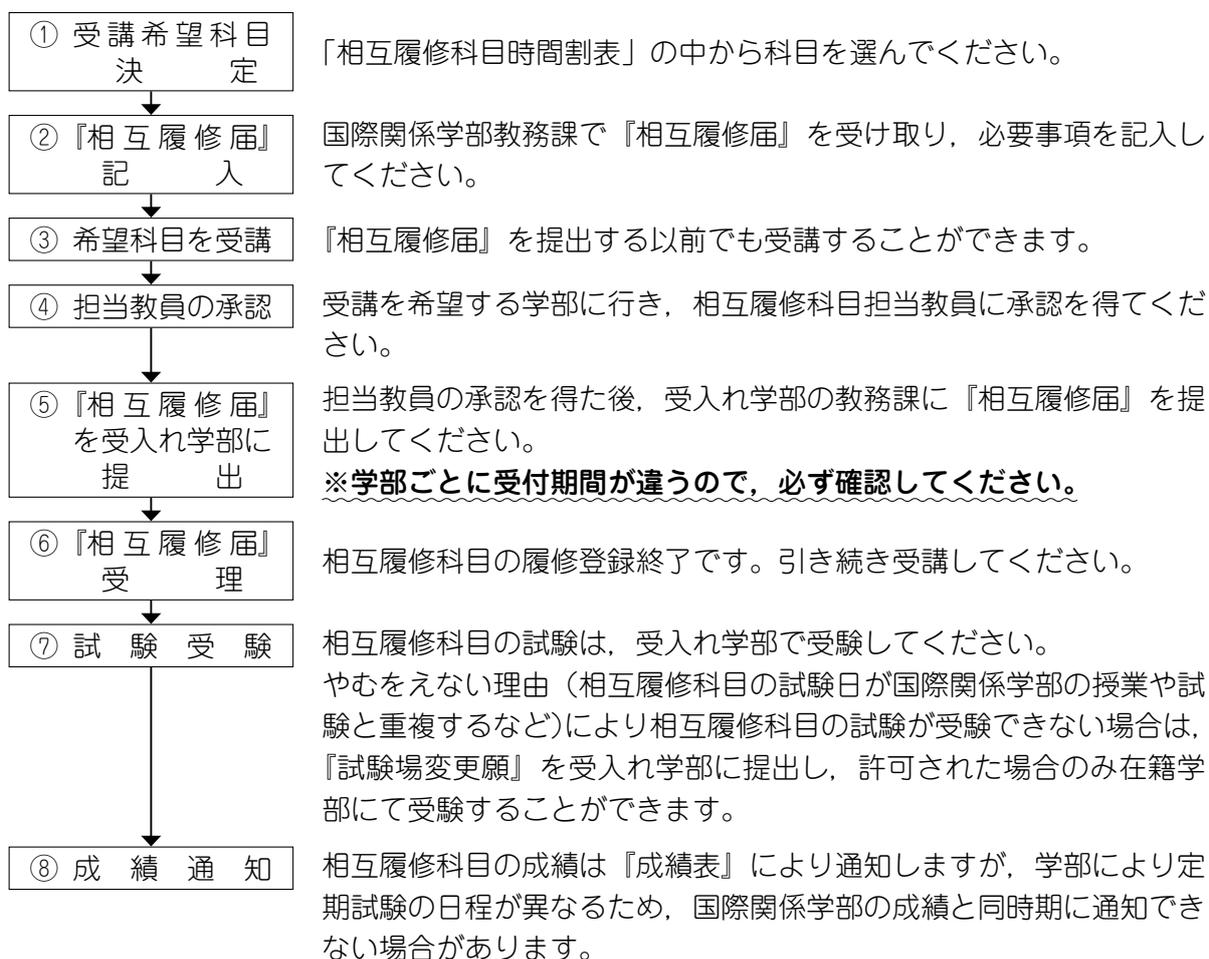
【日本大学他学部との相互履修科目】

相互履修とは、卒業単位として日本大学他学部の科目を履修できる制度です。この制度によって日本大学ならではの幅広い教育・研究の総合性が発揮されるとともに、学生同士の交流も深まり、学問上の専門的な偏りのない豊かな人間性の確立が期待されます。相互履修科目は各学部がその開講科目のうちから指定して履修を認めるものです。

相互履修制度を利用する場合は、国際関係学部の必修科目の時間割を優先し、卒業に必要な単位と他学部への通学時間などを充分考慮して決定してください。

① 相互履修の手順

他学部の授業を履修するためには、次の手順による手続きが必要になります。



② 履修できる学年

3年次から履修できます。

③ 履修登録について

上記①の⑥までの手順が終了した後、教務課で履修登録処理を行います。履修登録処理が終了次第、UNIPAの「学生時間割表」で確認できます。

④ 単位の取り扱い

自由選択科目として卒業単元に算入します。なお、履修単位は年間最高履修登録単位数に含まれます。

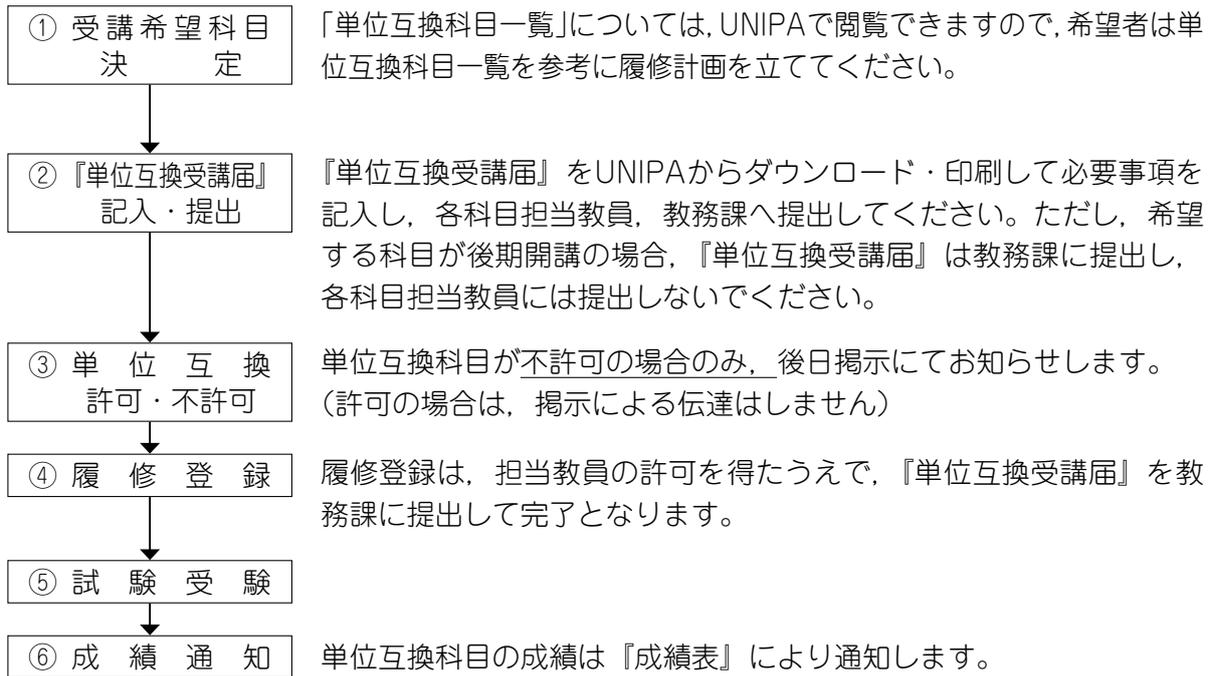
単位互換科目

【短期大学部（三島校舎）との単位互換科目】

国際関係学部_の学生は、三島キャンパスに併設されている短期大学部（三島校舎）の授業を履修することが可能です。短期大学部（三島校舎）との単位互換制度を利用する場合は、国際関係学部_の必修科目の時間割を優先し、卒業に必要な単位を充分考慮して決定してください。

① 単位互換の手順

短期大学部（三島校舎）の授業を履修するためには、次の手順による手続きが必要になります。



② 履修できる学年

1年次から履修できます。

③ 履修上のルール

- ①単位互換科目の1年間で履修登録できる単位数は、20単位を上限とします。また単位互換科目の履修登録単位数は、年間の最高履修単位数に含まれます。
- ②上位学年に設置された科目は、その学年になるまで履修できません。
- ③履修できる科目は、UNIPAで閲覧できます。
- ④単位互換科目の中には、履修制限等の理由により、開講学科の学生が優先される為、受講できない場合もあります。

④ 履修登録について

上記①の④までの手順が終了した後、教務課で履修登録処理を行います。履修登録処理が終了次第、UNIPAの「学生時間割表」で確認できます。

⑤ 単位の取り扱い

自由選択科目として卒業単位に算入します。なお、履修単位は年間最高履修登録単位数に含まれます。

教 職 課 程

教職課程とは

教育職員免許法に定められる所定単位修得により、教育職員免許状を取得するための課程のことです。

国際関係学部では、国際教養学科に教職課程が設置されています。本学部の卒業要件（基礎資格）及び教職課程の所定の要件を満たし単位を修得することによって、教員免許を取得することができます。国際総合政策学科の学生も履修可能ですが、単位の取り扱いが異なりますので注意してください。本学部で教職課程を履修する場合には、1年次から履修するようにしてください。原則として、3年次以降からの履修はできません。

教職課程は通常の授業以外に、教職科目の履修や介護等体験、教育実習への参加が必要となりますので、強く教員を希望するという意志をもって履修するようにしてください。また、4年間で複数回に及ぶガイダンスへの出席を必須とします。

実際に教員になるには、大学で教職課程を修得し卒業時に免許を取得したうえで、各関係機関において実施される教員採用試験に合格することが必要です。このように、教員の採用は容易なものではありませんが、本学部では、志を高く持つ学生を広く求めています。

① 取得できる免許状

国際関係学部の在学生在が取得できる免許状は次のとおりです。

教員免許状を取得するには、卒業することが前提条件（基礎資格）となっています。

免許状の種類	教科
中学校教諭一種免許状	英 語
高等学校教諭一種免許状	英 語

② 履修方法

本学部では、中学校一種・高等学校一種免許状の同時取得を目指します。そのために必要な単位数は、次ページ「教職課程履修科目」のとおりです。必修科目、選択必修科目、卒業単位に参入されない科目など様々な特性を持った科目があります。よく読んで単位不足にならないよう気をつけてください。なお、海外留学等で修得した単位認定科目は、本学の卒業単位に換算されても、教員免許状取得に要する科目（次ページ「その他省令による科目」を除く）の単位としては認定されません。半期以上留学する場合は、事前に教務課に報告してください。

教職課程の履修を取り止める場合には、別途「教職課程取り止め願」を提出する必要があります。取り止める場合には、教務課で「教職課程取り止め願」に必要事項を記入・押印の上、教務課に提出してください。

教職課程履修科目

履修開始年次		1 年		2 年		3 年		4 年		最低履修単位数
免許法による区分										
その他省令による科目	日本国憲法	○日本国憲法	2							2
	体 育	○スポーツ科学と健康 ○スポーツ総合	2 1							3
	外国語コミュニケーション	○英語Ⅰ ○英語Ⅱ ○英語Ⅲ ○英語Ⅳ △資格英語Ⅰ △資格英語Ⅱ	2 2 2 2 1 1	○英語Ⅴ ○英語Ⅵ ○英語Ⅶ ○英語Ⅷ △資格英語Ⅲ △資格英語Ⅳ	1 1 1 1 1 1					14
	情報機器の操作	○情報処理Ⅰ ○情報処理Ⅱ	1 1							2
	教職の意義等に関する科目	★○現代教職論	2							
教職に関する科目	教育の基礎理論に関する科目	★○教育原論	2	★○発達と学習 ★○教育制度論	2 2					
	教職課程及び指導法に関する科目			★○英語科教育法Ⅰ ★○英語科教育法Ⅱ ★○道徳教育の理論と方法 ★○特別活動論 ★○教育の方法・技術論	2 2 2 2 2	★○英語科教育法Ⅲ(※1) ★ 英語科教育法Ⅳ	2 2			
	生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目			★○生徒指導・進路指導論	2	★○教育相談(※1)	2			
	教 育 実 習					★○教育実習事前・事後指導(※2) ★○教育実習Ⅰ ★ 教育実習Ⅱ	1 4 2			
	教職実践演習					★○教職実践演習(中・高)	2			31
	英 語 学			○英語学 ○英語音声学 ○英文法 英語発達史 英作文	2 2 2 2 2	○英米言語文化研究	4			
教科に関する科目	英米文学			○英米文学史	2					
	英語コミュニケーション	ビジネス英語Ⅰ	1	○英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ ビジネス英語Ⅱ	2 2 1	○英語翻訳法 英語通訳法 英語ディスカッション・ディベート	2 2 1			
	異文化理解			□異文化コミュニケーション論 □アメリカ文化 □日米比較文化論	2 4 4					24
	教科又は教職に関する科目			○人権論 ティーチング・インターンシップ ★ 教育実践体験研究Ⅰ ★ 教育実践体験研究Ⅱ ★ 学校インターンシップ	4 2 2 2 2					4
合計単位										80

○印は、教職必修科目です。

△印は、選択必修科目です。(△印の科目を必ず2科目以上修得してください)

□印は、選択必修科目です。(□印の科目を必ず1科目以上修得してください)

★印は、卒業単位(自由選択単位を含む)に算入できません。またGPAにも算入されません。

※1 教育実習前の修得が望ましい。

※2 教育実習実施直前の学期に修得してください。詳しい日程は掲示でお知らせします。
(例：4年前期に教育実習の場合3年後期に履修)

※3 教職必修科目に加えて、数科目履修し教科に関する科目を24単位以上修得してください。

③ 教育実習

教育実習は4年次又は3年次後期に実施することができます。教育実習校には、実習を行う前年の早い時期に受入れ許可をもらう必要があります（教育実習内諾）。ただし、教育実習内諾及び教育実習を行うには以下の条件がありますので、指定された日までに条件をクリアするよう努めてください。

(1) 教育実習内諾許可条件（教育実習実施前々年度まで）

- ① 「教育原論」の修得が必要です。
- ② 次のいずれかのスコアを取得し、2年次（教育実習を3年次に行う場合は1年次）後期授業終了時までスコアの写しを教務課に提出する必要があります。（名称・試験形態の変更により、スコアが変更される場合があります）
 - ・ 実用英語技能検定 2級以上
 - ・ TOEFL-ITP®（Level 1） 400点以上
 - ・ TOEIC® 公開テスト 450点以上
 - ・ TOEIC® -IP 450点以上
 - ・ TOEFL-iBT® 32点以上
- ③ 教職課程に関する事務手続き・ガイダンスに出席することが必要です。

(2) 教育実習許可条件（教育実習実施前年度まで）

- ① 次のいずれかのスコアを取得し、指定された期日までにスコアの写しを教務課に提出する必要があります。他の検査については、以下スコアと同等以上の取得が求められます。（名称・試験形態の変更等により、スコアが変更される場合があります）
 - ・ 実用英語技能検定 2級以上
 - ・ TOEFL-ITP®（Level 1） 450点以上
 - ・ TOEIC® 公開テスト 450点以上
 - ・ TOEIC® -IP 450点以上
 - ・ TOEFL-iBT® 45点以上
- ② 「英語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の修得が必要です。
- ③ 「英語Ⅰ～Ⅷ」の全ての修得が必要です。
- ④ 「現代教職論」、「発達と学習」、「道徳教育の理論と方法」、「特別活動論」、「生徒指導・進路指導論」の5科目のうち2科目以上の修得が必要です。
- ⑤ 「英語学」、「英語音声学」、「英文法」、「英米文学史」の4科目のうち、2科目以上の修得が必要です。
- ⑥ 教職課程に関する事務手続き・ガイダンスに出席することが必要です。

(3) 教育実習直前

「教育実習事前・事後指導」の履修が必要です。

④ 介護等の体験

中学校教諭免許状を取得するためには、「教育職員免許法の特例としての介護等の体験」が必要となります。

「介護等の体験」の概要

- (1) 体験期間：特別支援学校 2 日間，社会福祉施設 5 日間の合計 7 日間です。
- (2) 体験の学年・時期：「介護等の体験」は 3 年次または 4 年次 8・9 月に実施予定です。
- (3) 体験内容・費用：体験内容の詳細は，各体験施設等の指示によります。また費用は自己負担となります。

5 英語教員を志す学生へ

文部科学省は「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」(平成15年3月31日)において、英語教員が備えておくべき英語能力の目標値として、英検準1級、TOEFL® 550点、TOEIC® 730点と設定しています。一方、英語教員採用試験を実施している全国の教育委員会の中には、独自に文部科学省の設定した目標値以上の数値(例えば、英検1級、TOEFL® 580点、TOEIC® 800点など)を挙げて、そのいずれかの数値に達していれば英語の試験の受験を免除するなどの方法をとっています。

英語教員を志す学生は、このような状況を踏まえ、自分の英語力を正確に把握して、自分に合った具体的で達成可能な目標を設定し、実現させてください。それを積み重ねていくことが大切です。目標達成のための近道はありません。

6 履修カルテ

教職課程の履修開始から修了まで記入が必要となります。毎年4月に実施するガイダンス及び教職実践演習で記入します。

学生番号	学科	山形県立	取得免許 校種・教科	進路 就職以外	教職希望 希望	日本大学 国際関係 学部	
氏名	小・中・高	学年	写真 (2cm×3cm)	学内での活動(サークル等)			
学年	入学 年度	年度		学外での活動(ボランティア、アルバイト等)			
学年	所属校			実地			
学年	所属校			履修			
学年	所属校			※履修分析			
学年	所属校			責任感	S・A・B・C・D	指導性	S・A・B・C・D
学年	所属校			主体性	S・A・B・C・D	備蓄さ	S・A・B・C・D
学年	所属校			協調性	S・A・B・C・D	共感性	S・A・B・C・D
学年	所属校			自己研			
履修開始 年月日	(西暦) 年 月 日	履修終了 年月日	履修 年度	※履修分析			

※履修分析については、3年次終了時に記入する。

7 小学校教員養成特別プログラム

玉川大学通信教育部と「小学校教員養成特別プログラム」に関する協定を結び、小学校教諭二種免許状取得の機会を設けています。本プログラム履修には、別に定める推薦基準を満たすこと、さらに在学中に中学校・高等学校教諭一種免許状の取得が必要です。また玉川大学通信教育部での履修費等が別途必要になります。詳細は、教職ガイダンス・教務課で確認してください。

教職課程に係るガイダンス等の案内は掲示(UNIPA・15号館1階)でお知らせしますので、各自見落としがないよう十分注意してください。

日本語教員養成プログラム

日本語教員養成プログラムとは

現在、日本語教員が活躍する場は多様化しています。国内及び海外の日本語教育機関における予備教育、初等中等教育機関における外国人児童生徒に対する日本語指導、地域における在日外国人や研修生に対する日本語支援、国際協力機関の日本語教員派遣など、世界の至るところで日本語教員が活躍しており、そのニーズは年々高まっています。

本プログラムは日本語教員を目指す学生だけでなく、他の様々な分野でコミュニケーション能力を活かしたいと考えている学生など誰でも履修することができます。日本語教育はコミュニケーションそのものであり、教授者と学習者が相互に学び教え合う実践活動です。その能力は社会のどのような場面においても応用することができます。

教育課程は、文化庁が平成28年に公示した「日本語教育機関の告示基準」に示される日本語教員の要件を満たすよう、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の五つの区分にわたって授業科目が設定されています。科目群には国際関係学部ならではの幅広い選択肢があり、個々の目的に合った科目構成を選ぶことができます。

主な学習内容として、日本語学やコミュニケーション学などの基礎的な知識の他、教授法、教材作成、メディアの活用などの実用的な内容を含んでいます。また、国際関係学部で学ぶ留学生を対象とした日本語クラス、外部の日本語学校、海外の提携校での研修などを組み合わせた教育実習により実践力を養成します。

① 資格

本プログラムの必要な履修条件を満たし、大学卒業の資格を有する者には、プログラムを修了したことを証明する修了証が授与されます。

また、日本語教育機関での就職を更に有利にするため、「日本語教育能力検定試験」又は「全養協日本語教師検定」の受験を勧めています。このプログラムでは、検定合格に必要な幅広い知識が得られるよう、複数の科目の中に試験に出題される領域の内容を盛り込むのと同時に、演習クラスを設けて受験対策に力を入れています。

② 履修方法

日本語教員養成プログラム修了に必要な単位数は次ページの通りです。日本語教員養成プログラムの必修科目17単位と選択科目15単位以上の合計32単位以上を履修します。必修科目は卒業単位に算入されませんので、卒業要件をよく読み、不足のないように履修計画を立ててください。

＜日本語教員養成プログラム履修科目＞

区分	単位数	必修・選択	科目区分	授業科目
社会・文化・地域	必修科目を含め6単位以上	必修	【日本語教員養成科目】	★日本語教育概論(2)
		選択	【総合教育科目】	文学(2)
			【専門基礎科目】	国際関係論入門(2) 国際文化論入門(2)
			【コース専門基礎】	国際関係論 I (理論)(2) 国際文化論(2)
			【コース専門科目】	国際法概論(2) 国際政治学(2) 国際協力論(2)
			(国際関係コース)	国際政治学(2)
			(国際ビジネスコース)	国際経済学(2)
			(グローバルスタディコース)	地球環境と持続可能な開発(2) 比較文化論(2) 地球環境問題(4)
			(グローバル観光コース)	地球環境と持続可能な開発(2) 比較文化論(2) アメリカ文化(4)
			(国際文化コース)	ヨーロッパ文化史(4) 中国文化史(4) イスラム文化(4)
比較文化論(2) 日米比較文化論(2) 日欧比較文化論(2)				
日中比較文化論(2) アメリカ文化(4) ヨーロッパ文化史(4)				
中国文化史(4) イスラム文化(4) 英米言語文化研究(4)				
ヨーロッパ言語文化研究(4)				
【国際コミュニケーションコース】	比較文化論(2) 英米言語文化研究(4)			
【全コース共通専門科目】	地域研究 (アメリカ I) (2) 地域研究 (アメリカ II) (2) 地域研究 (ヨーロッパ I) (2)			
地域研究 (ヨーロッパ II) (2) 地域研究 (ヨーロッパ III) (2) 地域研究 (ヨーロッパ IV) (2)				
地域研究 (アジア I) (2) 地域研究 (アジア II) (2) 地域研究 (アジア III) (2)				
地域研究 (中東) (2) 地域研究 (アフリカ) (2) 地域研究 (特別研究) (2)				
Japan Studies II (日本文学)(2) Japan Studies III (文化史)(2) Japan Studies IV (スペシャルレクチャー) (2)				
Japan Studies V (スペシャルレクチャー) (2) 日本文学史(2) 日本文化(2)				
言語と社会	6単位以上	選択	【総合教育科目】	倫理学(2) 文化人類学(2) 世界の宗教(2)
			社会学(2) 政治学(2) 経済学(2)	
			【コース専門科目】	地方自治論(4) 行政学(4)
			(国際関係コース)	現代経済社会(4)
			(国際ビジネスコース)	社会学概論(2) 環境社会学(4)
			(グローバルスタディコース)	社会学概論(2) コミュニティ論(4) 文化政策論(4)
			(グローバル観光コース)	社会学概論(2) 地域振興論(4) 行政学(4)
(国際文化コース)	社会学概論(2) 現代思想(4)			
(国際コミュニケーションコース)	社会学概論(2)			
【全コース共通専門科目】	Japan Studies I (宗教・思想)(2) Japan Studies IV (日本社会)(2) Japan Studies V (経済)(2)			
Japan Studies VI (政治)(2) 日本宗教思想(2) 日本社会(2)				
日本経済(2) 日本政治(4) 日本史(4)				
言語と心理	2単位以上	選択	【総合教育科目】	心理学(2) ジェンダーと社会(2)
			【コース専門科目】	エスノグラフィー論(4) 交流マネジメント論(4)
			(グローバルスタディコース)	異文化コミュニケーション論(2)
			(グローバル観光コース)	異文化コミュニケーション論(2)
			(国際文化コース)	異文化コミュニケーション論(2) 社会心理学(4) エスノグラフィー論(4)
(国際コミュニケーションコース)	異文化コミュニケーション論(2)			
【教職課程科目】	◆発達と学習(2)			
言語と教育	必修科目を含め8単位以上	必修	【日本語教員養成科目】	★日本語教授法(理論)(2) ★日本語教授法(応用)(2) ★日本語教育実習(2)
		選択	【コース専門科目】	(国際コミュニケーションコース) 英語コミュニケーション I (2) 英語コミュニケーション II (2)
			【全コース共通専門科目】	*ティーチング・インターンシップ(TIP)(2) 国際交流(外国語実習)(2)
			情報処理 I (1) 情報処理 II (1) 情報処理 III (1)	
【教職課程科目】	◆教育原論(2) ◆教育の方法・技術論(2) ◆学校インターンシップ(2)			
言語	必修科目を含め10単位以上	必修	【日本語教員養成科目】	★日本語文法 I (2) ★日本語文法 II (2) ★日本語音声学(2)
		選択	【総合教育科目】	世界の言語(2)
			【コース専門科目】	(国際文化コース) 現代言語学(4) 日本言語文化研究(4) 漢字文化論(4)
合計	32単位以上			

★印は、卒業単位（自由選択単位を含む）に算入できず、GPAにも算入されません。

◆印は、教職課程科目より選択できます。卒業単位（自由選択科目を含む）に算入できず、GPAにも算入されません。

*TIPは「日本語教育実習(2単位)」に読み替えることができます。自由登録はできず、履修資格者は選抜により決定します。

③ 日本語教育実習

日本語教育実習は2年次以降に履修することができます。実習校は、実習前の授業ガイダンス及び個別指導において指導教員と話し合い、学内の日本語授業、学外の日本語授業、海外研修の中から1つまたは複数の組み合わせを選択します。教育実習を行うには以下の条件がありますので、履修登録前に条件を満たすようにしてください。

＜日本語教育実習許可条件＞

教育実習の実施前学年度までに、「日本語教授法（理論）」と「日本語教授法（応用）」の履修単位（2×2単位）を取得済、または実習年度において取得見込みであること。

④ ティーチング・インターンシップ

「ティーチング・インターンシップ（Teaching Internship）」は、海外で日本語や日本文化を紹介するプログラムです。現在、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、モンゴル、スペインの5か国に派遣しています。日本語教員養成プログラムから独立したプログラムですが、取得した単位を日本語教員養成科目の必修単位として算入することができます。

このプログラムに参加するためには、選考に応募し、最終選抜に合格しなければなりません。研修の派遣先や派遣時期により応募の時期と方法が異なりますので、国際教育センターの募集要項をよく見て応募するようにしてください。（p.72参照）

⑤ 履修モデル

日本語教員養成プログラム修了に必要な単位をすべて取得するために、1年次から計画を立てて履修してください。次の表は、履修方法の一例です。この順序で履修すると効率よく専門知識が得られますので参考にしてください。

日本語教育の検定試験は一度で合格するのは難しいと言われています。なるべく2年次または3年次に検定試験が受けられるよう、それまでに必修科目はすべて履修しておくようにしてください。また、教職免許を同時に取得する場合は、教職課程履修科目の多くが2年次以降に開設されるため、1年次のうちなるべく多くの必修科目を履修することをお勧めします。

1年次	前期	日本語教育概論, 日本語文法Ⅰ, 【総合教育科目】, 【専門基礎科目】
	後期	日本語文法Ⅱ, 日本語語彙論, 【総合教育科目】, 【専門基礎科目】
2年次	前期	日本語教授法(理論), 日本語音声学, 【コース専門科目】
	後期	日本語教授法(応用), 日本語教育検定演習, 【コース専門科目】
3年次	前期	日本語教育実習, 日本語教育検定演習, 【全コース共通専門科目】
	後期	日本語教育実習 * 検定試験受験

6 検定試験実施要項

	日本語教育能力検定試験	全養協日本語教師検定
実施機関 (参照)	日本国際教育支援協会 (JEES) http://www.jees.or.jp/jltct/	全国日本語教師養成協議会 http://www.zenyoukyou.jp/kentei.html
目的	日本語教員となるために学習している者、日本語教員として教育に携わっている者等を対象として、その知識及び能力が日本語教育の専門家として必要とされる基礎的水準に達しているかどうかを検定すること。	日本語教育の現場に直接関わる実践的知識及び能力を測ることにより、日本語教育実践者の質的向上を目指し、日本語教育としての意欲と自覚を促し、以って日本語教育全体のレベルアップに貢献すること。
試験形式	試験Ⅰ (90分・100点) 社会・文化・地域、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語一般」の区分ごと、基礎知識・能力、分析的知識・能力を測定。 試験Ⅱ (30分・40点) 試験Ⅰで求められる「基礎的な知識」及び試験Ⅲで求められる「基礎的な問題解決能力」について、音声を媒体とした出題形式で測定。 試験Ⅲ (120分・100点) 出題範囲の区分横断的な設問により、熟練した日本語教員の有する現場対応能力につながる基礎的な問題解決能力を測定。	試験Ⅰ (90分) 教育現場で求められる、日本語のルール、教授法、授業展開等に関する専門的な知識を中心に問う客観テスト (マークシート選択式問題)。 試験Ⅱ (70分) 初級並びに中上級レベルの教室活動をビデオで視聴し、教授活動等にかかわる問題点を記述させることにより、実践的教授技術能力を問う主観テスト (記述式問題)。 ※合格基準：総合得点60%以上
試験日	平成29年10月22日 (日) 9:00~16:40	平成30年2月第3又は第4日曜日 10:00~13:00
試験地	札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡	札幌、仙台、東京、横浜、大阪、岡山、福岡、沖縄
受験料	10,600円	6,000円
申込期間	平成29年6月19日 (月) ~平成29年8月7日 (月) [消印有効]	平成29年12月初旬~平成30年1月下旬
結果発送	平成29年12月15日 (金)	平成30年3月中旬

Ⅵ 海外留学

留学を思い立ったら

留学には以下の種類があります。

- 派遣交換留学（本部枠・学部枠）
- ダブル・ディグリー・プログラム
- 中期留学
- 認定留学

上記は、通算2年を上限として、休学することなく学部の承認を得て留学(留学扱い)することができます。留学期間は修業年数に算入できるので、単位等の卒業要件を全て満たすことができれば、最短4年での卒業が可能です。(ニューヨーク州立ストーニーブルック大学ダブル・ディグリー・プログラムは最短で4年半)

上記の他に、休学をして留学(留学扱いとならない)をする方法もありますが、休学期間は修業年数に算入されませんので、卒業時期は遅れることになり、単位認定も対象外となるので注意が必要です。

国際関係学部における留学に関する取扱い

- ① 留学の期間は、留学先大学が定める1学期等とし、2年間を限度とします。
なお、留学を希望する学生は事前に必ず国際教育センターに相談してください。
- ② 留学の期間は、修業年数に算入することができます。
- ③ 留学期間中の学費は、留学在籍料として徴収し、学年の留学の場合12万円、学期の留学の場合6万円となります。
- ④ 外国の大学に留学中に修得した授業科目の単位認定にあたっては、成績証明書、時間数を示す書類、シラバス、授業での成果などをもとに認定科目と単位数を判断します。
 - ①単位認定の対象となる外国の大学とは、日本大学本部及び日本大学国際関係学部・短期大学部（三島校舎）と学術協定を結んだ大学、又は海外における正規の高等教育機関で学位授与権を有する大学とします。
 - ②①以外の教育機関については、日本大学本部及び日本大学国際関係学部・短期大学部（三島校舎）と学術協定を結んだ大学に付属する教育機関に限り単位認定を行います。
- ⑤ 留学期間を修業年数に算入できるのは、事前に日本大学国際関係学部又は日本大学本部から承認された留学(留学扱い)のみとします。
- ⑥ 留学中に修得した授業科目の単位については、その科目の講義内容・履修時間数・成績等を勘案し、学部の承認を経て本学部の修得単位として認定されます。認定単位数は、単位互換科目、相互履修科目（遠隔授業を含む）、全ての留学の認定単位、その他の認定単位と合わせて計60単位以内（編入学者は別途対応）に限られます。

各種留学制度

◆概要

■海外提携校交換留学／派遣留学

日本大学本部又は国際関係学部が協定校として締結した高等教育機関に、大学や学部を代表する交換留学生として1学年相当期間派遣される制度です。派遣生は、現地学生とともに通常カリキュラムを履修することになり、一部を除いた受入先機関の授業料が免除される等の利点があります。派遣者の決定には所定の選考審査がありますので、詳細は募集要項等で確認してください。

※柳川海外交流奨学金による柳川奨学生（第1種）

日本大学名誉教授柳川三郎先生の寄付金を基金とした奨学金で、主としてドイツにおいて研究・研修を行う者に対する支援を目的とし、学部派遣交換留学プログラムにて、提携校のヨハネス・ゲーテンベルク大学への選抜試験に合格した学生に対して給付します。留学プログラムの募集概要等については国際教育センターへ、奨学金の詳細については学生課へお問合せください。

■ダブル・ディグリー・プログラム

国際関係学部 に在籍する学生が、2年間次の大学で修学し、双方の大学の学士号を取得することを目的としています。派遣生募集概要等の詳細は、国際教育センターへお問合せください。

- ① アメリカ ニューヨーク州立ストーニーブルック大学
- ② 中国 同済大学外国語学院

■学部主催中期留学

① 学部が主催する約半年の留学プログラムです。国際関係学部が協定を結ぶ次の大学の付属語学学校等へ留学します。

- ①アメリカ セント・ノーバート・カレッジ（8月出発）
- ②インド ゴア大学（9月出発）
- ③中国 北京大学国際関係学院（3月出発）

② 留学中に修得した授業科目の単位は、帰国後に募集説明会時に配布される学部承認済の「中期留学単位認定読替表」に従い「中期留学生修得単位認定願」を作成の上提出し、学部の承認を得た場合は、学部規程に基づき卒業に必要な単位として認定されます。

■認定留学

① 国際関係学部 に在籍する学生が、次の条件を満たし、事前に学部の承認を得た場合は、休学することなく、認定留学として外国の大学に留学することができます。

- ① 外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はその付属の教育機関を指します。
- ②当該外国の大学で学修することが、教育上有益であると認められることが必要です。
- ③当該学生が外国での教育を受け得るだけの能力を有していることが必要です。

② 留学の期間は、留学先大学が定める1学期等とし、2年間を限度とします。
なお、留学を希望する学生は、事前に必ず国際教育センターに相談してください。

③ 留学の期間は、修業年数に算入することができます。

④ 留学中に修得した授業科目の単位は、p.68「国際関係学部における留学に関する取扱い」の4に該当する教育機関から付与された場合のみ申請ができます。

◆申込み方法等

■日本大学本部及び国際関係学部派遣交換留学

- ① 日本大学本部の派遣交換留学の留学説明会及び募集要項は日本大学本部国際交流課ホームページにて周知されます。日本大学本部が取扱窓口となりますので、募集要項に従い直接申込み手続きを取ってください。ただし、申込書類のコピーを国際教育センターに提出してください。
- ② 国際関係学部の派遣交換留学の留学説明会及び募集要項は、UNIPAや国際教育センター掲示板などで周知します。国際教育センターが取扱窓口となりますので、募集要項に従い申込み手続きを取ってください。
- ③ いずれの派遣交換留学の場合も、合格者は国際教育センターを通じ速やかに所定の留学手続きを取ると共に、留学出発までに留学アドバイザーと面談し、留学中の履修計画について十分に相談してください。

■ダブル・ディグリー・プログラム

- ① ダブル・ディグリー・プログラム応募者は留学開始時に3年次の学生であることが条件であり、申込み期間までにTOEFL-iBT® スコア、累積GPA等の留学応募条件を満たしていることが必要です。
- ② プログラムに興味のある場合は、国際教育センターで募集要項を入手し、事前にプログラムの詳細及び応募要件を確認してください。
- ③ 留学先の大学より入学許可を得た学生は、国際教育センターを通じ速やかに所定の留学手続きを取ると共に、留学出発までに留学アドバイザーと面談し、留学中の履修計画について十分に相談してください。

■国際関係学部主催の中期留学

- ① セント・ノーバート・カレッジ（アメリカ）、ゴア大学（インド）、北京大学国際関係学院（中国）への中期留学については、それぞれ参加者募集の説明会に参加し、応募資格、留学プログラムの概要、帰国後の単位認定の条件等を確認してください。説明会の開催日程については、UNIPAや国際教育センター掲示板などで確認してください。
- ② 参加志望者は、募集要項に記載された申込み手続きに従って、所定の期日までに申し込んでください。なお、留学先によってはその他の書類（TOEFL® スコア等）の提出が求められる場合もありますので、必ず事前に確認してください。

申込み提出期限目安

（※正確な期日については、UNIPAや国際教育センター掲示板などで確認してください）

セント・ノーバート・カレッジ、ゴア大学……4月

北京大学……11月

■認定留学

- ① 本部及び学部派遣交換留学又は学部主催の中期留学以外での留学をする場合は、まず国際教育センターで認定留学に関する手続き（認定留学許可、学費免除規定、留学単位認定等）の説明を受けてください。また、各大学等への入学審査等の時間も考慮し、留学希望時期よりも遅くとも半年前からは準備を始めるようにしてください。

日本大学海外学術交流協定校（2017年4月現在）

日本大学では、海外の主要な大学と学術交流協定を締結し、教職員の交流、共同研究の計画実行、留学生の交換、学生の短期研修、学術・文化の交流などを行っています。

オーストラリア	マッコーリ大学	クィーンズランド大学
ブラジル	サンパウロ大学	
カナダ	トロント大学	
中国	成都大熊猫繁育研究基地 中国管理科学学会 中国伝媒大学 福建師範大学 福建省富閩基金会及び福建省対外友好協会 遼寧大学	北京大学 遼寧省人民政府 山東大学 新疆医科大学 鄭州大学 香港教育学院
台湾	国立中興大学	国立台湾大学
フィンランド	ラッペンランタ大学	
フランス	アヴィニョン大学	
ガーナ	ガーナ大学	
ドイツ	ベルリン自由大学	ヨハネス・グーテンベルク大学
韓国	高麗大学校 慶熙大学校	延世大学校
ロシア	モスクワ国立国際関係大学	ロシア科学アカデミー
スペイン	マドリード・コンプルテンセ大学	パリヤドリード大学
スウェーデン	ストックホルム大学	
イギリス	ケンブリッジ大学	
アメリカ	エリザベスタウン・カレッジ ジョージ・メイソン大学 アラバマ大学バーミンガム カリフォルニア大学サンタバーバラ校 ケント州立大学	ハワイ大学マノア校 オレゴン大学 ワシントン州立大学 ウェスタンミシガン大学
アイルランド	メイヌース大学	
デンマーク	オーフス大学	
オーストリア	クレムス応用科学大学	
スイス	北西スイス応用科学・芸術大学	

国際関係学部海外学術交流覚書・合意書締結校（2017年4月現在）

国際関係学部では、海外の大学と覚書・合意書を取り交わし、交換留学生の派遣や学術・文化の交流を行っています。

覚書

オーストラリア	マッコーリ大学
中国	北京大学国際関係学院
フランス	西カトリック大学 フランス経済商科大学
ドイツ	ヨハネスグーテンベルク大学
インド	ゴア大学
韓国	慶熙大学校国際・経営学部
フィリピン	デ・ラ・サール大学教養学部
スペイン	サラマンカ大学 パリヤドリード大学
タイ	アサンブション大学
インドネシア	インドネシア教育大学
アメリカ	セント・ノーバート・カレッジ フェリシアン大学 ニューヨーク州立ストーンブルック大学 イリノイ州立大学
コロンビア	ノルテ大学

合意書

韓国	韓国カトリック大学校 白石大学校・白石文化大学校 蔚山大学校国際教育部 世宗大学校 崇實大学校 東国大学校
台湾	静宜大学
オーストラリア	サンシャインコースト大学
中国	同済大学外国語学院 河南大学経済学院

ティーチング・インターンシップ・プログラム

国際関係学部では海外の小・中学校及び高等学校との間に締結された「ティーチング・インターンシップ・プログラム」合意書に基づき、毎年、学部生をティーチング・インターンとして派遣しています。ティーチング・インターンシップ・プログラムの主な目的は、国際的な視野を持ち、異なる文化価値を理解し、あらゆる国際的な状況下で柔軟に対応しながら行動できる個人を養成することです。このプログラムは事前研修と実習の2つから構成されています。事前研修では、日本語教授法を効果的に取り入れながら、日本文化を派遣先の言語や日本語で紹介する能力を養成します。実習は海外の派遣校において約8週間行われます。授業や課外活動における教員・児童・生徒たちとの交流、またはホストファミリーとの交流により、教育体験と生活体験の双方から言語運用能力とコミュニケーション能力を養成し、その地域の文化や価値観を尊重できる柔軟さを身につけます。

(1) 派遣先 (2016年度の例) :

- ・アメリカ サウス・カロライナ州
Discovery School of Lancaster
- ・ニュージーランド ニュープリマス市
Devon Intermediate School
Highlands Intermediate School
West End School
- ・オーストラリア タウンズビル市
Belgian Gardens State School
Ryan Catholic College
- ・モンゴル ウランバートル市
ノムトナラン学校
- ・Saint Anthony's Catholic College
- ・Southern Cross Catholic College
- ・スペイン バリャドリード市
フリアン・マソアス中等学校
ピナル・デ・ラ・ルビア中等学校

(2) 派遣時期：例年2月上旬～3月下旬 約8週間

ノムトナラン学校のみ9月上旬～11月上旬

(3) 募集定員：若干名 (2016年度は15名派遣)

(4) 選考方法：書類選考、TOEFL® テスト (英語圏)、面接、事前研修の成績等により総合的に判定します。

(5) 事前研修：派遣候補者には、現地で授業を行う能力の向上のため、事前研修を行います。英語、スペイン語又は日本語で模擬授業を行い、日本語・日本文化に対する基礎事項、授業運営の方法について学びます。

(6) 単位認定：所定の条件を満たすことにより、事前研修と実際の派遣を併せて「ティーチング・インターンシップ」(2単位)として単位が認定されます。

(7) 備考：派遣先によって、派遣時期、選考方法、事前研修内容が異なります。説明会で確認してください。

Ⅶ 日本大学学則 (抄)

第1節 目的及び使命

第1条 本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。

第2条 本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。

第5節 学年・学期及び休業日

第13条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第14条 学期は、次のとおりとする。ただし、事情によって異なる場合がある。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から3月31日まで

第15条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日でも特に授業又は試験を行うことがある。

- ① 日曜日
- ② 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- ③ 本学創立記念日(10月4日)
- ④ 春季休業 3月11日から3月31日まで
- ⑤ 夏季休業 7月11日から9月10日まで
- ⑥ 冬季休業 12月21日から翌年1月10日まで

2 休業日の変更及び臨時の休業日については、そのつどこれを定める。

第6節 入学・在学・転学・転籍・休学・留学・退学及び除籍

第16条 入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。

第19条 入学を志願する者は、各学部所定の手続によって願出するものとする。

第20条 入学の選抜試験に合格した者は、所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。

第21条 修業年限は、最低4年とし、在学年数は、8年を超えることができない。

3 前2項の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて在学年数の期限内の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

4 第1項の規定にかかわらず、文部科学大臣の定めるところにより、本大学に3年以上在学した者(これに準ずる文部科学大臣の定める者を含む)が、卒業の要件として定め

る単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、その卒業を認めることができる。

第23条 本大学に編入学，転学又は本大学内において転部科，若しくは転籍した者は，その学部に2年以上在学しなければ卒業することができない。ただし，第21条第4項の規定に該当する場合はこの限りではない。

第24条 本大学の通学の課程と通信教育課程との間には，事情により選考の上，相互の転籍を許可することがある。この場合既に修得した授業科目は，転籍した課程の定める基準の範囲内において認定することができる。

第25条 病気その他やむをえない事由により，引き続き3か月以上出席することのできない者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署で願い出て，その許可を得て休学することができる。ただし，休学期間は1年以内とし，なお，休学を要する者は，許可を受けて更に1年以内の休学ができる。

第26条 休学者は，学期の始めでなければ復学することができない。

第27条 休学期間は，修業年数に算入しない。

第27条の2 本大学が教育上有益と認めるときは，休学することなく，外国の大学に留学することを許可することがある。

2 留学の期間は，修業年数に算入する。

第28条 病気その他やむをえない事由のため，退学しようとする者は，その事実を証明する書類を添え，保証人連署で退学願を提出して，許可を受けなければならない。

第29条 正当な理由で退学した者が，当該学部に再入学を志望したときは，選考の上許可することがある。この場合には，既修授業科目の全部又は一部の再履修を命ずることがある。

第30条 故なくして3か月以上学費の納付を怠った者は，これを除籍することができる。

第31条 故なくして欠席が長期にわたる者は，これを除籍することができる。

第7節 履修規定

第32条 各授業科目の単位数は，1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし，授業の方法に応じ，当該授業による教育効果，授業時間外に必要な学修等を考慮して，次の基準により計算するものとする。

- ① 講義及び演習については，15時間から30時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ② 実験，実習及び実技については，30時間から45時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ③ 講義，演習，実験，実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合については，その組み合わせに応じ，前二号に規定する基準を考慮して学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究，卒業制作等の授業科目については，

これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第32条の2 前条に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところによって、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第33条 教育職員の免許状を得ようとする者は、別に定める規定によって教職課程を履修しなければならない。

第34条 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によっては、その他の方法で査定することができる。

2 試験には平常試験・定期試験・追試験・再試験及び卒業試験等がある。定期試験は学期末又は学年末に行い、追試験は、やむをえない事故のため定期試験を受けることのできなかった者のために行い、再試験は受験の結果不合格となった者のためにこれを行う。

3 追試験及び再試験は当該学部において必要と認めたときに限り、これを行う。

第35条 修学についての所定の条件を備えていない者は、受験資格を失うことがある。

第36条 学業成績の判定は、S、A、B、C及びDの5種をもってこれを表し、Sは90点以上、Aは80点以上、Bは70点以上、Cは60点以上、Dは59点以下とし、S、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。合格した授業科目については、所定の単位数が与えられる。

2 成績評価を係数化する必要のある場合は、S、A、B、C及びDをそれぞれ4、3、2、1及び0に換算する。なお、係数化についての事項は別に定める。

第37条 各学部を卒業するために必要な最低単位数は、第2章教育課程及び履修方法に定めるところによる。

2 学生が許可を受けて在籍する学部以外の学部で履修した授業科目の単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前項に定める授業科目の履修については、別に定める。

4 学生が許可を受けて他の大学又は短期大学で履修した授業科目の単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

5 前項の規定は、学生が許可を受けて外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

6 学生が許可を受けて行う短期大学又は高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修は、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

7 学生が本大学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

とみなすことができる。

8 学生が本大学に入学する前に行った第6項に規定する学修は、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。

9 第2項、第4項、第5項及び第7項により修得したものとみなす単位並びに第6項及び第8項により与えることのできる単位は、合わせて60単位を超えない範囲で、卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第37条の2 第32条の2に規定する授業によって修得した単位は、60単位を超えない範囲で、卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第8節 卒業及び学士の学位

第38条 第21条に定めた修業年限に達し、所定の授業科目及び単位を修得し、卒業した者に学士の学位を授与する。

第39条 前条の学位に付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

国際関係学部 国際関係

第9節 学費及び貸給費

第40条 授業料その他所定の学費は、別表2の定めるところにより納付するものとする。

第41条 授業料を分納しようとする者は、事由を述べた書面により、保証人連署で願い出るものとする。

第42条 試験料・論文審査料・その他各種の手数料等については別表3の定めるところにより納付するものとする。

第43条 既納の学費は、いかなる理由があっても返還しない。

第44条 停学を命ぜられた学生は、停学期間中も授業料を納付しなければならない。

2 休学及び留学を許可された学生の休学及び留学期間中の学費の取り扱いについては、別に定める。

第45条 学業人物ともに優秀な学生であって、学費支弁の方法のない者には、学費を減免し、又は貸与・給付することがある。

2 減免・貸給費については、別に定める。

第10節 委託生及び外国人留学生

第46条 国又は公共団体から、一定の在学期間と履修科目とを定めて、入学を願い出た者に対しては、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

第47条 委託生の入学資格については、第18条の規定を準用する。

第48条 委託生は、その履修した授業科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、願い出によって単位取得証明書を与えることができる。

第49条 委託生として4年以上在学し、所属学部における所定の単位を修得した者には、学士の学位を授与する。

第50条 委託生の授業料その他本大学に納付するために必要な学費は、委託者から納付するものとする。

第51条 外国人留学生の入学及び転・編入学については、第6節の規定を準用する。ただし、特別に選考を行い入学を許可することができる。

2 外国人留学生については、学修の必要に応じて第2章に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて日本語科目及び日本事情に関する科目（以下「日本語科目等」という）を開設することができる。

3 前項に定める日本語科目等の授業科目については、当該学部の教授会がこれを定める。

4 帰国生についても第1項及び第2項の規定を準用することができる。

第52条 委託生、外国人留学生に関して、本節各条に規定しない事項については、学部学生に関する規定を準用する。

第11節 科目等履修生・聴講生・特別聴講学生及び研究生

第53条 学部の授業科目中の1科目又は数科目の履修を希望する者に対して、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生の出願手続等については、別に定める。

第54条 科目等履修生は、履修した授業科目について、試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を与えることができる。

第55条 学部の授業科目中の1科目又は数科目の聴講を希望する者に対して、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生の出願手続等については、別に定める。

第57条 各学部において、特殊な事項に関する研究に従事しようとする者に対しては、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生は、指導教員の個人指導を受けて研究に従事するものとする。

第58条 研究生として入学することができる者は、その学部において選考の上、適当と認められた者に限る。

第59条 研究生として入学を志願する者は、所定の出願書類に研究しようとする事項を記載して、学期の始めに願出するものとする。

第60条 研究生の在学年限は、1年とする。ただし、事情によって期間の延長を願出することができる。

第61条 研究生は、指導教員及び担任教員の承諾を経て、学部の講義・演習及び実験等に出席することができる。

第62条 研究生として、相当の成績を示したと認められる者には研究証明書を与える。

第63条 研究生に関して、本節各条に規定しない事項については、学部学生に関する規定を準用する。

第14節 賞 罰

第75条 人物及び学業成績が優秀な者には、授賞することがある。

2 授賞に関する規定は、別に定める。

第76条 学生が本大学の規則・命令に背き若しくは大学の秩序を乱し、又は学生としての本分に反する行為があった場合にはその情状によって懲戒を行うことがある。

第77条 懲戒は、退学・停学及び訓告の3種とする。

2 前項の退学は次の各号の一に該当する者について行う。

- ① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- ② 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- ③ 正当の理由がなくて出席常でない者
- ④ 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

3 懲戒の手続に関する規定は、別に定める。

第15節 寄宿舍

第78条 寄宿舍に関する規定は、別に定める。

Ⅷ 部科校所在地一覧

日本大学本部

〒102-8275 千代田区九段南4-8-24

法学部

〒101-8375 千代田区三崎町2-3-1

JR総武・中央線, 都営地下鉄三田線「水道橋」
駅下車徒歩3～4分

都営地下鉄新宿線・三田線, 東京メトロ半蔵門線
「神保町」駅下車徒歩5分

文理学部

〒156-8550 世田谷区桜上水3-25-40

京王線, 東急世田谷線「下高井戸」駅下車徒歩
10分

京王線「桜上水」駅下車徒歩10分

経済学部

〒101-8360 千代田区三崎町1-3-2

JR総武・中央線, 都営地下鉄三田線「水道橋」
駅下車徒歩3～4分

都営地下鉄新宿線・三田線, 東京メトロ半蔵門線
「神保町」駅下車徒歩5分

商学部

〒157-8570 世田谷区砧5-2-1

小田急線「祖師ヶ谷大蔵」駅下車徒歩12分

小田急線「成城学園前」駅下車バス5分

芸術学部

〒176-8525 練馬区旭丘2-42-1

西武池袋線「江古田」駅下車徒歩3分

【所沢校舎】

〒359-8525 所沢市中富南4-21

西武新宿線「航空公園駅」, JR武蔵野線「東所
沢駅」よりバス15分

国際関係学部

〒411-8555 三島市文教町2-31-145

【北口校舎】

〒411-8588 三島市文教町1-9-18

危機管理学部

〒154-8513 東京都世田谷区下馬3-34

東急田園都市線「三軒茶屋」下車徒歩10分

スポーツ科学部

〒154-8513 東京都世田谷区下馬3-34

東急田園都市線「三軒茶屋」下車徒歩10分

理工学部

【駿河台校舎】

〒101-8308 千代田区神田駿河台1-8-14

JR総武・中央線, 東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」
駅下車徒歩3分

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅下車徒歩3分
都営地下鉄新宿線「小川町」駅下車徒歩7分

【船橋校舎】

〒274-8501 船橋市習志野台7-24-1

東葉高速線「船橋日大前」駅下車徒歩1分

生産工学部

〒275-8575 習志野市泉町1-2-1

JR総武線「津田沼」駅北口下車バス10分

京成本線「京成大久保」駅下車徒歩10分

工学部

〒963-8642 郡山市田村町徳定字中河原1

JR東北新幹線・東北本線「郡山」駅下車バス20分

JR東北本線「安積永盛」駅下車徒歩15分

医学部

〒173-8610 板橋区大谷口上町30-1

東武東上線「大山」駅下車徒歩15分

池袋駅西口バス20分

歯学部

〒101-8310 千代田区神田駿河台1-8-13

JR総武・中央線, 東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水」
駅下車徒歩2～5分

東京メトロ千代田線「新御茶ノ水」駅下車徒歩2分
都営地下鉄新宿線「小川町」駅下車徒歩7分

松戸歯学部

〒271-8587 松戸市栄町西2-870-1

JR常磐線, 東京メトロ千代田線, 新京成電鉄「松
戸」駅下車バス15分

生物資源科学部

〒252-8510 藤沢市亀井野1866

小田急江ノ島線「六会日大前」駅下車徒歩2分

薬学部

〒274-8555 船橋市習志野台7-7-1

東葉高速線「船橋日大前」駅下車徒歩7分

新京成電鉄「北習志野」駅下車徒歩20分

通信教育部

〒102-8005 千代田九段南4-8-28

JR総武・中央線, 東京メトロ有楽町線・南北線,
都営地下鉄新宿線「市ヶ谷」駅下車徒歩3分

索引

あ

インターネット・携帯電話を利用した 休講情報	3
---------------------------	---

か

海外留学	68
外国語の履修	54
介護等の体験	62
各種証明書	18
学生証再発行	10
学部の概要	1
授業科目配置表	37~53
仮学生証（試験受験用）	10
休学・復学・退学	16
休学の手続き	16
休講措置	2
教育実習	62
教室変更	2
教職課程	60
欠席	4
国際関係学部海外学術交流覚書・合意書締結校	71
国際交流（外国語実習）	57

さ

G P A 制度	12
試験	7
試験欠席届	9
就職活動による授業欠席届	6
授業	2

授業欠席届	5
授業の形態	19
受講届	20
小学校教員養成特別プログラム	63
証明書自動発行機	18
成績と単位	12
ゼミナール・卒業論文	55
相互履修科目	58
卒業の要件	35

た

退学の手続き	17
ダブル・ディグリー・プログラム	70
単位認定	14
単位互換科目	59
追試験	7
定期試験	7
ティーチング・インターンシップ・プログラム	72
中期留学	69

な

日本語教員養成プログラム	64
日本大学海外学術交流協定校	71
日本大学学則（抄）	73
認定留学	69

は

派遣交換留学	68, 69
部科校所在地一覧	79

復学の手続き	17
補講	2

ま

や

柳川海外交流奨学金による柳川奨学生	69
----------------------------	----

ら

履修から単位修得までの流れ	19
履修上の注意点	36
履修単位の制限	21
履修登録	19
履修登録の削除・追加	21
履修登録の注意点	20
留学の種類	69
レポート	11

わ

平成29年 3 月25日印刷

平成29年 4 月 1 日発行

編 集 日本大学国際関係学部学務委員会

発 行 日本大学国際関係学部教務課
〒411-8555 静岡県三島市文教町2-31-145
TEL (055) 980 - 0802 番

印 刷 文光堂印刷株式会社
静岡県沼津市西間門68-1

日本大学 NIHON UNIVERSITY

本	部	Central Administration Office
法	学	College of Law
文	理	College of Humanities and Sciences
經	济	College of Economics
商	学	College of Commerce
芸	術	College of Art
国	際	College of International Relations
危	機	College of Risk Management
ス	ポ	College of Sports Sciences
理	工	College of Science and technology
生	産	College of Industrial Technology
工	学	College of Engineering
医	学	School of Medicine
齒	学	School of Dentistry
松	戸	School of Dentistry at Matsudo
生	物	College of Bioresource Sciences
薬	学	School of Pharmacy
通	信	Distance Learning Division
短	期	Junior College



**2017
COLLEGE
OF
INTERNATIONAL
RELATIONS
NIHON
UNIVERSITY**